

クボタ管理機

取扱説明書



安全はクボタの願い

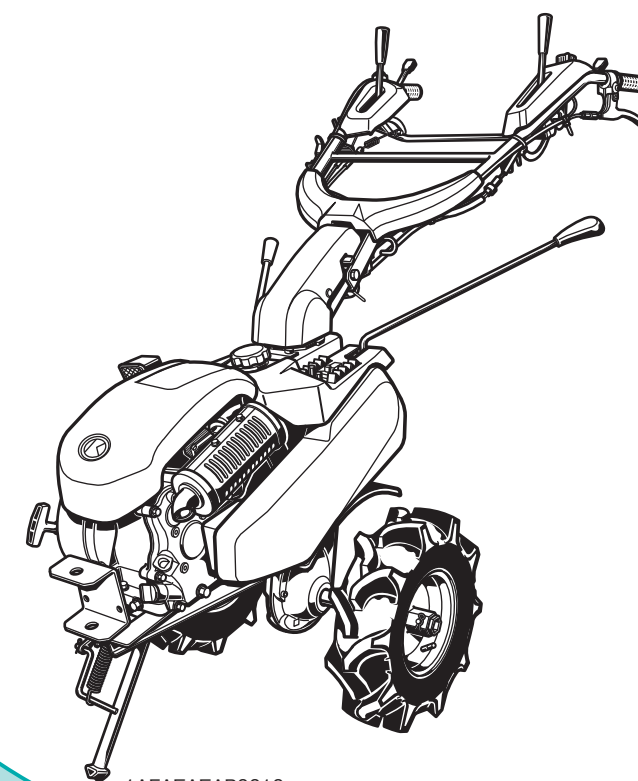
このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が
一体となって安全宣言を行うための統一マークです。



陸内協排出ガス自主規制適合

このラベルは「(社)日本陸用内燃機関
協会排出ガス自主規制適合エンジン」
であることを示しています。

TA 500N
700N
800N



1AFAEAEAP0010

TA 500N・700N・800N

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

OPERATOR'S MANUAL

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。



エンジン停止



チョークレバー



ガソリン燃料

専門用語の説明

ON

燃料コック [開]

OFF

燃料コック [閉]

R

変速位置 [後進]

PTO

動力取出し軸

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点は **まず、購入先へ** ご相談ください

おぼえのため、該当する項目に記入されると便利です

購入先名		型式名
		区分
		車台番号（製造番号）
担当		エンジン型式
		エンジン番号
電話番号（ ） -		その他装着型式
ご購入日	キーナンバー	機械番号

※ご記入の際には、サービスと保証のページをご参照ください。
なお、型式により該当しない記入項目もあります。

ご購入先でご不明の点がございましたら、下記にお問合わせください。

クボタアグリサービス株式会社

秋田	事務	所：電(018)845-1601	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
仙台	事務	所：電(022)384-5162	〒981-1221	宮城県名取市田高字原182-1
東京	事務	所：電(048)862-1124	〒338-0832	さいたま市桜区西堀5-2-36
新潟	事務	所：電(025)285-1261	〒950-0992	新潟市中央区上所上1-14-15
金沢	事務	所：電(076)275-1121	〒924-0038	石川県白山市下柏野町956-1
大阪	事務	所：電(06)6470-5850	〒661-8567	兵庫県尼崎市浜1-1-1
福岡	事務	所：電(092)606-3161	〒811-0213	福岡市東区和白丘1-7-3
熊本	事務	所：電(096)357-6181	〒861-4147	熊本市南区富合町廻江846-1

株式会社北海道クボタ

本社	：電(011)661-2491	〒063-0061	北海道札幌市西区西町北16-1-1
----	-----------------	-----------	-------------------

株式会社東海近畿クボタ

一宮事業	所：電(0586)24-5111	〒491-0031	愛知県一宮市観音町1-1
------	------------------	-----------	--------------

株式会社中国クボタ

本社	：電(086)279-4511	〒703-8216	岡山市東区宍甘275
----	-----------------	-----------	------------

株式会社クボタ

国内農機カスタマーセンター	：電(0570)091313	〒590-0823	大阪府堺市堺区石津北町64
---------------	----------------	-----------	---------------

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は本製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただき、じゅうぶん理解され、お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し、かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また、お読みになったあとも製品に近接して保存し、わからないことがあったときには取出してお読みください。なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

⚠ 安全 第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお、⚠表示ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買上げの購入先に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について、次のように表示しています。



危険

注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負うことになるものを示します。



警告

注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。



注意

注意事項を守らないと、ケガを負うおそれのあるものを示します。

重要

注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補足

その他、使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は、農業用機械ですので農作業以外では使用しないでください。
使用目的以外の作業、また夜間作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。
(詳細は保証書をご覧ください。)

仕様について

この取扱説明書では、仕様の異なる製品を下記のように表示していますので、お買上げの製品の仕様をお確かめのうえ、お間違いのないようお願いいたします。
なお、説明は【TA700N-SC仕様】を基本とし、【TA700N-SC仕様】と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。従って、機種及び仕様区分によっては付いていない装置の説明もあります。

- 操向クラッチ入替え S仕様
- 操向クラッチ切替え装置付き SC仕様
- 3. 50-7 タイヤ付き K仕様
- 4. 00-7 タイヤ付き J仕様
- ゴムラグ車輪付き N仕様
- 16×7. 00-8 タイヤ付き W仕様

目 次

▲安全に作業するために

運転する前に.....	1
始動するとき.....	2
移動、作業するとき.....	2
作業が終わったとき.....	6
点検、整備をするとき.....	6
表示ラベルと貼付け位置.....	8
表示ラベルの手入れ.....	9

サービスと保証について

各部の名称と装置の取扱い

運転のしかた

新車時の扱い.....	7
ならし運転（最初の 10 時間まで）.....	7
運転前の点検.....	7
運転前の日常点検.....	7
エンジンの始動と停止のしかた.....	7
始動のしかた.....	7
プライミングポンプの操作のしかた.....	9
停止のしかた.....	10
発進のしかた.....	11

作業のしかた

上手な作業のしかた.....	12
作業前の準備.....	12
耕うん作業手順.....	12
耕うん作業での旋回手順.....	12
各部の名称と装置の取扱（補足項目）.....	13
スタンド（スタンドレバー）.....	13
PTO レバー.....	13
PTO 牽制金具.....	14
主変速レバー.....	14
後進牽制ボルト.....	15
高速牽制ボルト.....	16
リコイルスタータ.....	16
燃料キャップ.....	16
ハンドルの回動.....	17
各部の調節.....	18
エアクリーナの調節.....	18
ハンドル高さの調節.....	18
ハンドルの逆向き.....	19
輪距の調節、車輪交換のしかた.....	24

管理機の簡単な手入れと処置

廃棄物の処理について.....	25
洗車時の注意.....	25

定期点検箇所一覧表.....	26
給油一覧表.....	26
管理機の給油.....	26
日常点検.....	27
前日の異常箇所.....	27
機械の周りを歩いて.....	27
調子よく作業するために.....	27
安全に作業するために.....	28
使用時間に応じた点検・整備.....	29
エンジンオイルの交換.....	29
ミッションオイルの交換.....	29
エアクリーナエレメントの清掃とオイル交換.....	30
燃料フィルタの清掃.....	31
燃料チューブの交換.....	31
点火プラグの調節・清掃・交換.....	32
必要に応じた点検・整備.....	33
ファンカバーの清掃.....	33
タイヤ空気圧.....	33
主クラッチケーブルの調節.....	33
操向クラッチケーブルの調節.....	35
ハンドル上下調節.....	35
PTO ケーブルの調節.....	35
スロットルレバーの調節.....	35
スタンドの調節.....	36
使用後の手入れ.....	36
エンジン始動不良を防ぐために.....	36
長期格納時の手入れ.....	37
燃料の抜取り.....	37
自動車（トラック）への積込み、運搬 ..	38

付表

主要諸元.....	39
標準付属部品.....	40
主な消耗部品一覧表.....	41

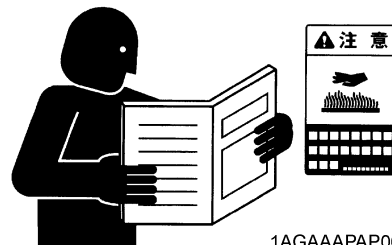
トラブルと処置

本機をご使用になる前に、必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で、安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが、これ以外にも、本文の中で ▲ 危険 ・ ▲ 警告 ・ ▲ 注意 ・ 重要 ・ 補足 としてそのつど取上げています。

運転する前に

■ 運転前に

- 機械を動かす前に、取扱説明書と機械に貼ってある ▲ 表示ラベルをよく読み、理解した上で運転してください。
- 機械の運転操作、特に主クラッチ **【切】** はすばやくできるよう、よく練習し、じゅうぶんに慣れてから作業してください。

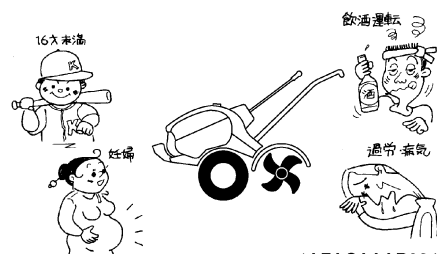


1AGAAAPAP062D

■ 使用する人は

次の項目に該当する場合は、機械を使用しないでください。

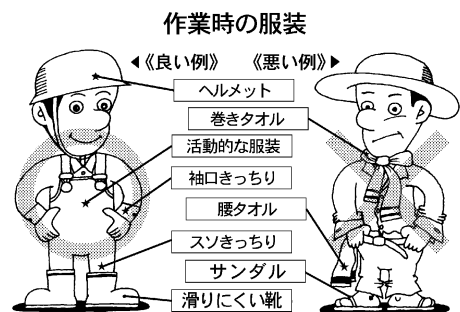
- 本書及びラベルの内容が理解できない人
- 視力不足などのため表示内容が読めない人
- 飲酒時や体調が悪いとき、また妊娠中の人
- 16才未満の人
- ハンドルを操縦する体力に自信のない方



1AFACAAAP024F

■ 使用する人の服装は

- 回転部分や操縦装置に引っ掛かり事故の原因になる、だぶついた服、腰タオルなどはやめてください。
- ヘルメット、安全靴、保護メガネや手袋などを必要により着用してください。



1AAAAABCP001D

■ 周囲への注意

- 子供、ペットを近づけないでください。
- 人を近くに寄せないでください。
- 共同作業者がいるときは、互いに注意してください。

■ 他人に貸すときは

- 事前に運転のしかたを教え、**【取扱説明書】** を必ず読んでもらってください。
- 本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。



1AHACACAP001F

■ 給油・注油するとき【火気厳禁】

- 燃料の給油・各部への注油時は必ずエンジンを停止し、規定量以上入れないでください。
- エンジン回転中やエンジンが熱い間は火災のおそれがあるので給油はしないでください。
- 煙草を吸ったり火気を近づけないでください。
- 給油口の赤色ゲージ以上に燃料を入れしないでください。
- 燃料補給後、給油キャップはもれないようしっかり締めてください。
- こぼれた燃料はふき取ってください。

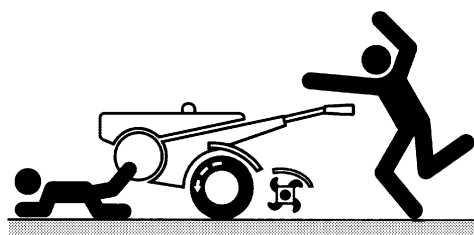


1AFACAAAP025D

始動するとき

■ エンジンを回すとき

- 必ず本機の主クラッチレバー・PTO レバーを【切】り、主変速レバーを【中立】にして、付近に人（特に子供）を近づけないでください。
- もし主クラッチや変速が入っていると車体や爪軸が急に動いて事故になるおそれがあります。
- リコイルスタータを引張る方向に人がいないか、突起物・障害物がないか確かめてから始動してください。傷害事故のおそれがあります。



1AFACAAAP026C

■ 排気ガスに注意

- 換気が不じゅうぶんな所では、暖機運転や作業はしないでください。排気ガスにより一酸化炭素中毒のおそれがあります。
 - ハウス内では排気ガスが充満しないように、じゅうぶんに換気を行なってください。
- 排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。

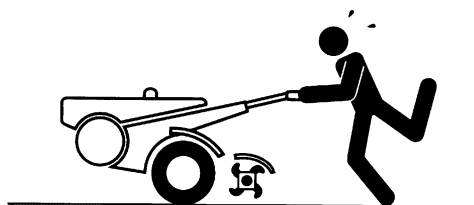


1AFACAAAP027C

移動、作業するとき

■ 発進するとき

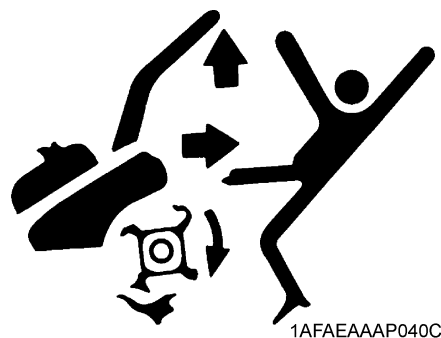
- 速い速度での走行はじゅうぶん注意してください。
- 車速の最低速で主クラッチレバーの【入】はゆっくり、【切】はすばやくの操作を習熟した上で使用してください。
- 小走りになるようなスピードを出したり、急発進、急旋回はしないでください。転倒などのおそれがあります。
- 後進の発進時は、ハンドルが持上がりやすいので、エンジンの回転を下げ、しっかりハンドルを押えながらゆっくり主クラッチを入れてください。



1AFACAAAP028C

■ ロータ装着時後進は禁止

- ハンドルが跳上がり回転する爪に巻込まれるおそれがあるので【後進】に変速しないでください。



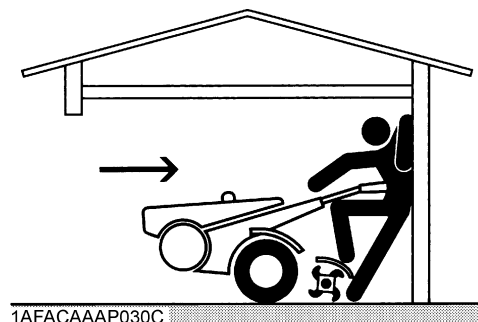
■ 移動するとき

- 移動の際は、必ずロータリの回転を止めてください。



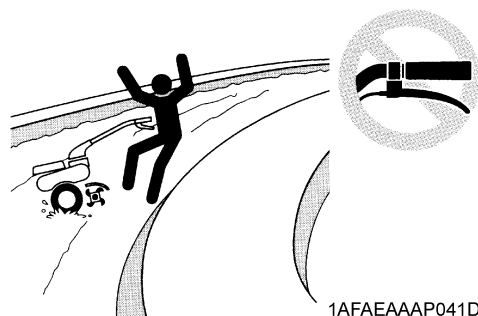
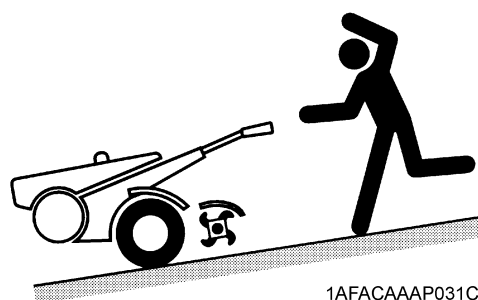
■ ハウス、車庫などでの移動

- 後方の壁、支柱、天井など障害物にはさまれるおそれがあるのでエンジン回転を下げて後進してください。
- 屋根の低いハウス内や車の荷台では、エンジンを停止して手で引出してください。



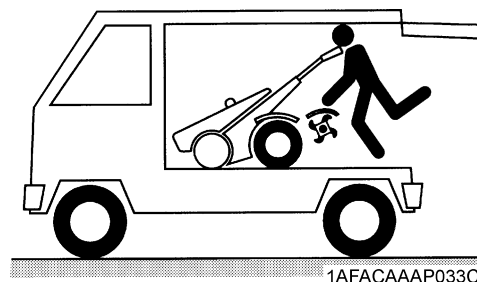
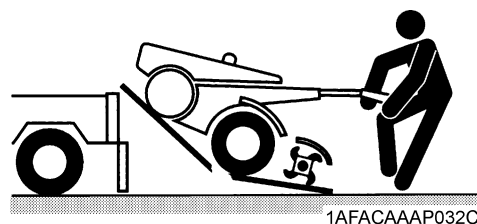
■ 坂道を移動するとき

- 坂道、ほ場の出入り、あぜの乗越えなどの途中で主クラッチを【切】ったり、主変速を【中立】にすると、機体が思わぬ方向に進み危険です。
- 変速操作は、機械が平坦な場所以外では行なわないでください。落下や転倒のおそれがあります。
- 坂道や凹凸、カーブの多い路上で高速運転すると、転倒したりして危険ですから必ず低速運転してください。
- 坂道で操向クラッチを操作すると、思わぬ方向に曲がり転倒のおそれがありますので、必ずハンドル操作で方向転換してください。



■ 運搬・積降ろしするとき

- 積込み・積降ろしは、平たんで交通の邪魔にならない安全な場所で行なってください。
- アユミ板はすべり止めのついた、機体重量に耐えるもので、トラックの荷台の高さ **【1】** に対しアユミ板の長さ **【4 以上】** のものを使用し、確実に固定してください。
- 足元に注意し、車速は最低速で、上りは **【前進】** 下りは **【後進】** で行ない、途中で主クラッチを切ったり、変速操作をしないでください。落下・転倒のおそれがあります。
- トラックなどで運搬するときは、荷台に天井がある車を使用すると天井に首や体をはさまれるおそれがありますので、必ず荷台に天井がない車を使用してください。
- 運搬時は燃料コックレバーを必ず **【閉】** にし、給油キャップはもれないようしっかり締めてください。燃料もれが発生し、火災や爆発のおそれがあります。
- 機体の固定はフロントヒッチ、リアヒッチ及びロープフックを使ってロープ掛けを行ない、確実に床に固定してください。（ハンドルを使っての固定はしないでください。）



■ 耕うん作業するとき

- いつでも主クラッチが **【切】** れる姿勢で運転してください。車軸（ロータ）・爪軸（ロータリ）作業開始時や作業中、機体が思わぬ方向に飛出し転倒や人身事故のおそれがあります。
- 作業前に、ほ場の状態をよく確認して、石・材木・針金・空カン・空ビンなどを取除いてください。
- 作業前、作業後には機械の整備・点検を行なってください。特にエンジン本体、マフラ周辺、配線部にワラくずなどがたまっていると、火災の原因になります。
- 周囲の枯れ草やたい積ワラなどは作業前に取除くか移動させてください。機械のマフラが接触すると発火するおそれがあります。
- ほ場の中や周囲にある支柱、樹木や段差などは、作業前に位置を確認し、後進時にはさまれたり、転倒・転落しないよう安全な距離を保って、近づかないよう作業してください。
- ハウスや小屋の中、果樹園など障害物がある場所では、周囲をよく確認しながら作業してください。特に後進、旋回するときは、エンジン回転を下げ、ハンドルをしっかり押えて行なってください。
- 長いワラ・草など作業に支障のあるものは、作業前に取除いてください。機体が思わぬ方向に飛出し、転倒などのおそれがあります。



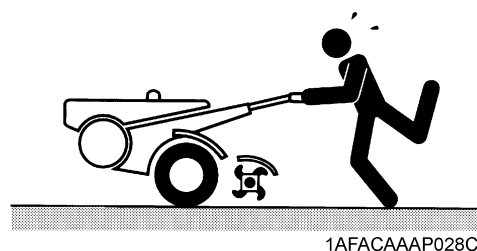
■ 回転している爪に注意

- ハンドル部を持上げ旋回するとき、足元及び周囲にじゅうぶん注意してください。回転する爪に巻込まれるおそれがあります。



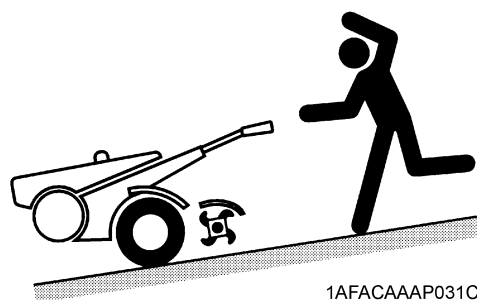
■ ほ場が硬いとき

- 硬いほ場では車速を遅めにして、耕深も浅めで作業を行ってください。機体が飛出すおそれがあります。



■ 機械から離れるとき

- エンジンは必ず停止させ、平たんで安定した場所に停車してください。移動・落下するおそれがあります。（やむなく傾斜地に止めるときは車止めをしてください）
- 周囲に草・ワラなど燃えやすいものがある場所に止めないでください。火災のおそれがあります。

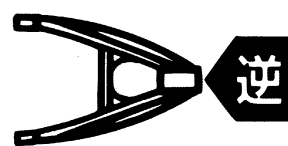
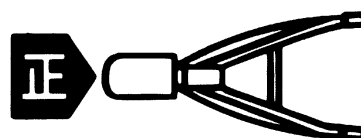
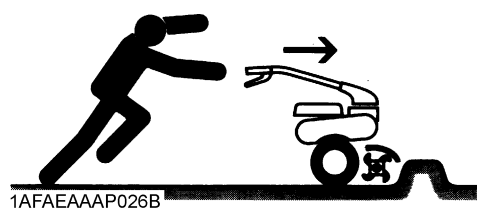


■ ハンドル回転するとき

* 操向クラッチワイヤの切替え

【SC仕様】は操向クラッチ切替えボタンを切替え，**【S仕様】**は、操向レバーとワイヤを入替えてください。

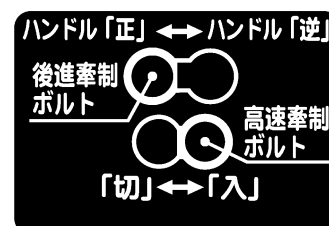
ハンドル位置を正（逆）から逆（正）に変更すると、操向クラッチの方向が左右入替わり思わぬ方向に旋回して危険です。



1AFAEAAAP027B

* 後進牽制ボルトの切替え

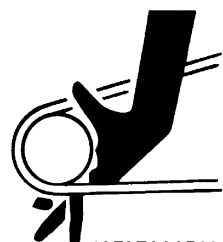
ハンドル位置を変えたときは必ず牽制ボルトの位置を切替えてください。高速で後進すると機体が運転者に衝突し危険です。



1AFAEAEAP033A

■ PTO 軸を使用するとき

- 回転物に巻込まれるおそれがあるので、まわりにカバーや囲いをしてください。
- 使用しないときはカバーを組付けてください。

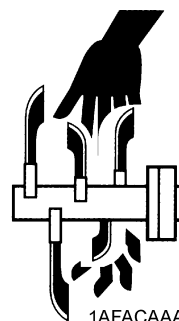


1AFAEAAAP031D

作業が終わったとき

■ 掃除をするとき

- 必ずエンジンを停止してください。車軸（ロータ）・爪軸（ロータリ）などに巻付いた草・ワラ・泥土などを取除くときは、巻込まれるおそれがあります。



1AFACAAAP036D

点検，整備をするとき

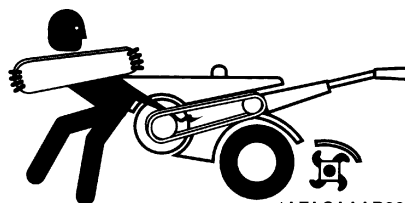
- 点検，整備，アタッチメントの脱着などは、機械が転倒しない平坦な所に機械を安定させて、エンジンを止め、高温部が冷めてから行なってください。



1AFACAAAP039C

■ カバー類は必ずつける

- ベルトカバー，PTO 軸カバーなどの防護カバーを取外すときは、必ずエンジンを停止してください。巻込まれるおそれがあります。
- 取外したカバー類は元通り組付けてください。



1AFACAAAP037C

■ タイヤの整備

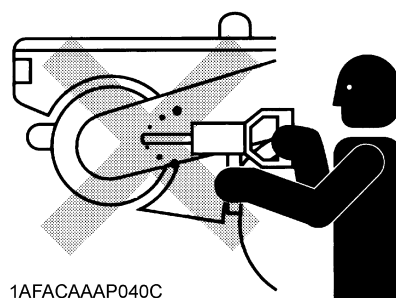
- タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を、必ず守ってください。空気の入れ過ぎは、タイヤ破裂のおそれがあり、死傷事故を引起す原因になります。
- タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は、使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
- タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は、必ず購入先にご相談ください。
(特別教育を受けた人が行なうように、法で決められています。)



1AFACAAAP041C

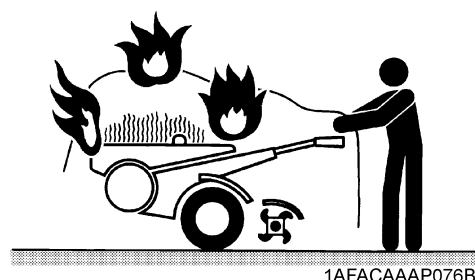
■ 機械の改造禁止

- 機械を改造しないでください。改造すると機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながるおそれがあります。



■ 格納するとき

- 機体に保管用カバーやシートをかけるときは、高温部が冷めてから行なってください。
- 乾いた草・ワラなど可燃物のあるところでの保管はしないでください。
火災のおそれがあります。



■ 廃棄物の処理について

- 廃棄物をみだりに捨てたり、焼却しないでください。環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
- 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
- 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
- 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、尿素水（AdBlue[®]）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリー、ゴム類、その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。



■ 夜間作業の禁止について

- 本機は夜間作業灯を装備していませんので、夜間作業はしないでください。思わぬ事故になるおそれがあります。

■ 作業機の着脱について

- 作業機の着脱は、平たんで安全な場所で行なってください。
- PTO 作業機の装着・取外し・調整・掃除又は修理をするときは、作業機が完全に止まるまで待ってください。



表示ラベルと貼付け位置

(1) 品番 KF052-4726-0

警告 傷害事故防止のため、取扱説明書を読んで正しい取扱いをし機械の運転操作、特に主クラッチはすばやく切れるようよく練習し、じゅうぶんに慣れたから作業すること。 始動するとき ◆主クラッチを切り、変速を中立にすること。 ◆前後左右に人がいないことを確認すること。 運転するとき ◆坂道、積み降ろし、ほ場の出入り畦の乗り越え等では、遅い車速で運転し途中で変速しないこと。 ◆後進時はハンドルがはね上がるので、主クラッチがいつでも切れるようハンドルを下げ遅い車速で後進し、後の障害物に注意のこと。 ◆周囲に人を近づけないこと。 点検・整備するとき ◆必ずエンジンをとめ高温部が冷えてから行うこと。	回転するツメに巻き込まれるおそれがあるので回転部に近づかないこと。	トレーラ走行禁止 小型特殊自動車の認定を受けていません。 傷害事故防止のため、積み込み積み降ろし、ほ場の出入りの際は ◆操向クラッチレバーを切らないこと。 ◆主クラッチレバーを切らないこと。 ◆変速の操作を行わないこと。 ◆上りは前進、下りは後進で最低速度で進むこと。
	後方に機械を移動する時は、 ◆屋根の低いハウス内や車の荷台ではエンジンを停止して手で移動させること。 ◆溝や壁などの障害物がないことを確認すること。	
	PTO軸を使用する時、巻き込まれるおそれがあるので回転物の周りにカバーや囲いをする事。使用しない時はカバーを装着すること。	
	ロータ装着時、後進禁止 ハンドルがはね上がり、回転するツメに巻き込まれるおそれがあるので、後進に変速しないこと。	

1AFAEAEAP020A

(2) 品番 KF052-4722-0 [SC仕様]

警告

操向クラッチ切替ボタン

ハンドル正位置の時は「正」の文字が見えること。

ハンドル逆位置の時は「逆」の文字が見えること。

旋回時の傷害事故を防ぐため切替ボタンを正しく切り替えること。

1AFAEAEAP035A

(2) 品番 KF046-4722-0 [S仕様]

警告

ケーブル

操向クラッチレバー

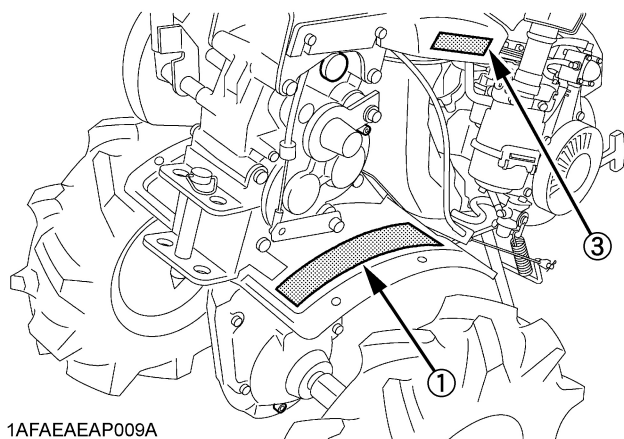
旋回時の傷害事故を防ぐためハンドルを正(逆)から逆(正)にする時は、必ず左右の操向クラッチレバーをケーブルと共に入れ替えること。

1AFAEAEAP022A

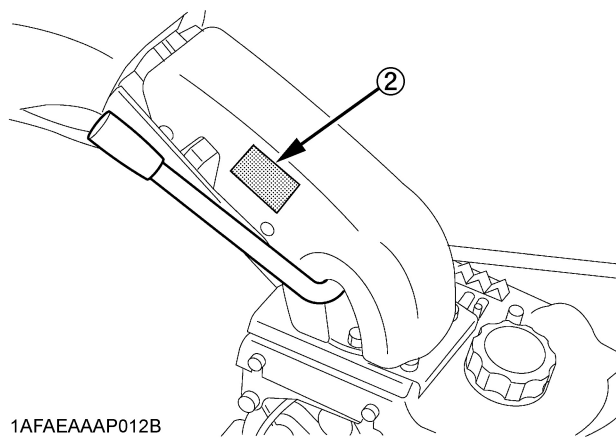
(3) 品番 KF052-4720-0

警告	火気厳禁 火災の危険があるので給油時は、エンジンを停止すること。	ガソリン	燃料を赤色ゲージ以上入れないでください。

1AFAEAEAP029A



1AFAEAEAP009A



1AFAEAAAP012B

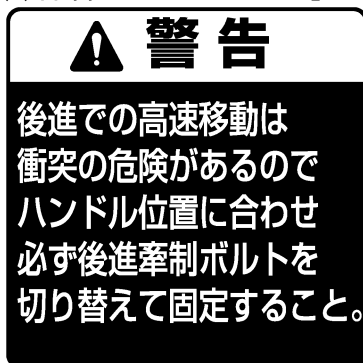
(1) 品番 KF052-4732-0

(2) 品番 KF046-4730-0 [TA500N]

(2) 品番 KF052-4730-0 [TA700N・TA800N]



1AFAEAEAP023A



1AFAEAEAP024A

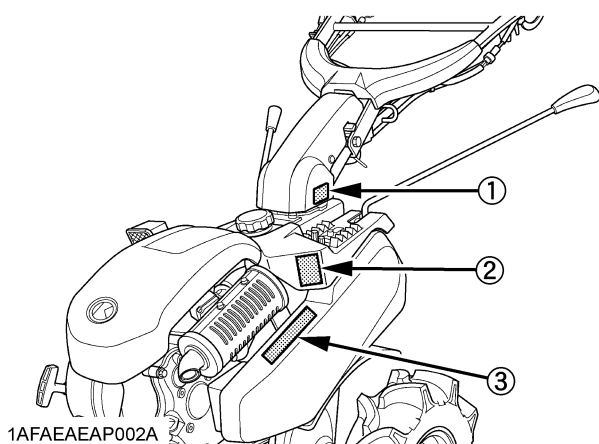


1AFAEAEAP036A

(3) 品番 LK670-4713-0



1AFAEAEAP026A



1AFAEAEAP002A

表示ラベルの手入れ

- ラベルは、いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
もしラベルが汚れている場合は、石鹸水で洗い、やわらかい布でふいてください。
- 高圧洗浄機で洗車すると、高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
- 破損や紛失したラベルは、製品購入先に注文し、新しいラベルに貼替えてください。
- 新しいラベルを貼る場合は、貼付け面の汚れを完全にふき取り、乾いた後、元の位置に貼ってください。
- ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

この製品には、保証書が添付してありますので、ご使用前によくご覧ください。

■ ご相談窓口

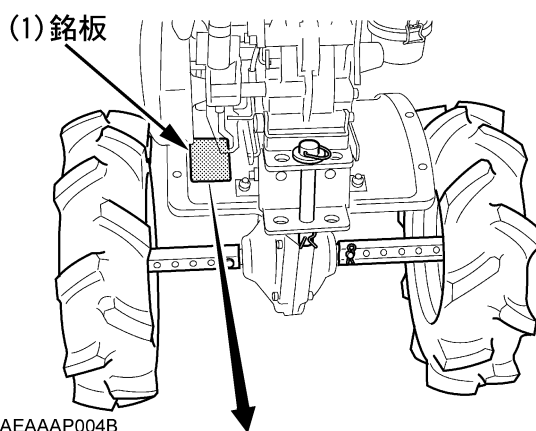
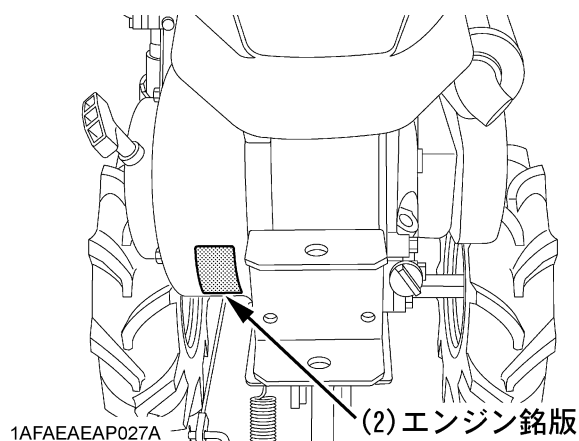
ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は、お買い上げいただいた購入先にそれぞれ【ご相談窓口】を設けておりますのでお気軽にご相談ください。

その際 (1) 型式名と製造番号

(2) エンジン番号

をあわせてご連絡ください。

なお、部品ご注文の際は、購入先に純正部品表を準備しておりますので、そちらでご相談ください。



警告

*** 機械の改造は危険ですので、改造しないでください。**
改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカー保証の対象外になるのでご注意ください。

◆ 認定番号

安全鑑定の農機型式名及び番号が必要な場合は、下記の型式名及び番号をご使用ください。

農機型式名	販売型式名	安全鑑定番号
TA500N-S	TA500N-S	39064
TA700N	TA700N TA800N	39065
TA700N-SC	TA700N-SC TA800N-SC	39066

■ 補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打切り後9年といたします。

ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

農業機械の種類 農用トラクター（歩行型）
型 式 名 **クボタ**
販 売 型 式 名
区 分
車 両 型 式 名
車台（製造）番号
製 造 会 社 **株式会社クボタ**

1AFAEAAAAP056B



警告

*** トレーラ走行はできません。**
小型特殊自動車の認定を受けておりません。
一般公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。
一般公道を移動するときは、自動車（トラック）に積んで運搬してください。

各部の名称と装置の取扱い

この項目では各部の名称と装置の取扱いを説明しています。詳しい取扱いの詳細が必要な項目は本文に記載しておりますので、6 ページの【各部の名称と装置の取扱い（補足項目）参照ページ】にて掲載ページを確認してください。

主クラッチレバー

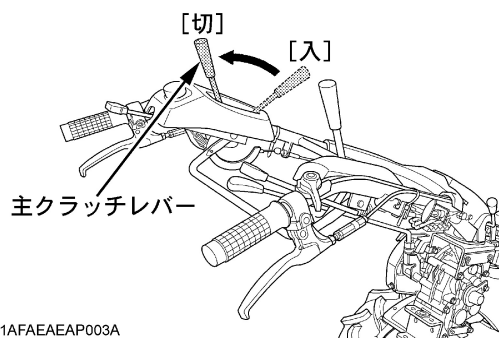


警告

- * 傾斜地や後進するときなどは、ハンドルが持ち上がり危険な場合がありますので、主クラッチレバーをゆっくり操作してください。
- * 狭い場所や後進の運転についてはエンジンの回転を低速にし、後方や上方など回りの安全を確かめ、ゆっくりと主クラッチレバーを操作してください。

エンジンから動力を断続します。

1. レバーを **【入】** 位置にするとクラッチが入ります。
2. レバーを **【切】** 位置にするとクラッチが切れます。



メインスイッチ

エンジンの運転・停止に用います。

運転時

停止時



1AFAAAAAAP184E 押しながら回す

押す

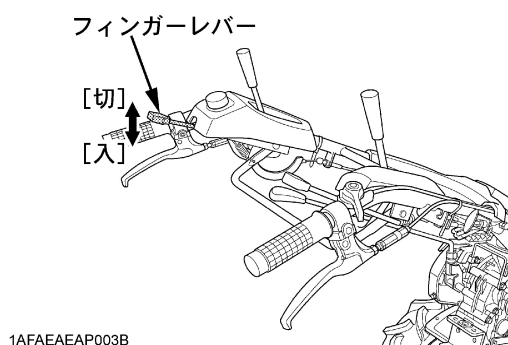
スイッチを押しながら **【運転】** 位置に回すと始動が可能です。 スwitchを押すと左に回って **【停止】** 位置に戻り、エンジンが停止します。

補足 * 非常時にはメインスイッチを押してください。エンジンが停止します。

フィンガーレバー

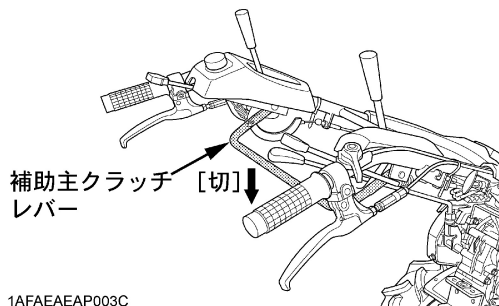
主クラッチレバーとフィンガーレバーは連動していますので、どちらでもクラッチ操作ができます。

1. レバーを押し下げるとクラッチが **【入】** になります。
2. レバーを押し上げるとクラッチが **【切】** になります。



補助主クラッチレバー

非常時にレバーを下方に押し下げると、主クラッチが切れ走行・PTO共に止まります。

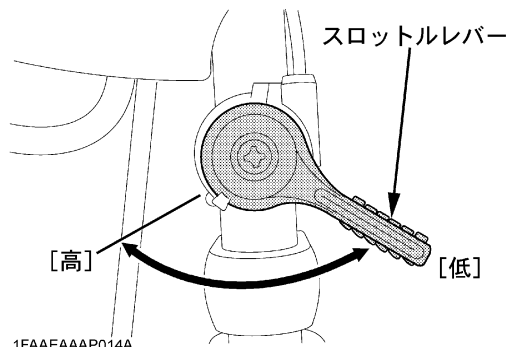


各部の名称と装置の取扱い

スロットルレバー

エンジン回転の調節をします。

1. **【高】** の方向に回すと回転が上がります。
2. **【低】** の方向に回すと回転下がります。



1FAAEAAP014A

リコイルスタータ



警告

***リコイルスタータを引っ張る方向に人がいないか、突起物・障害物がないか確かめてから始動してください。傷害事故のおそれがあります。**

エンジン始動時に使用します。主クラッチレバーを**【切】**・主変速レバーを**【中立】**・メインスイッチを**【運転】**位置にしてリコイルを引っ張ると始動します。

ハンドル高さ調節レバー



警告

***単体のとき…**

ハンドル高さ調節レバーの操作は、必ずスタンドを立てて行なってください。

***ロータリ付きのとき…**

ロータリが地面に接地していないときは、危険のため操作はしないでください。

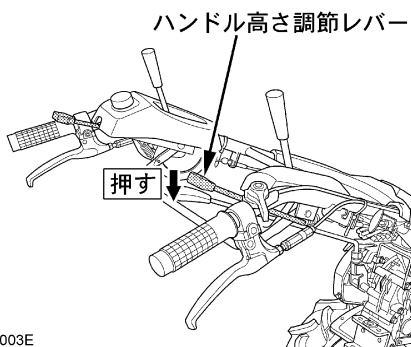
***走行時・作業時…**

危険のため操作はしないでください。

***操作するときは必ず主クラッチを切り、周囲を確認すると共にゆっくり操作し、操作後はハンドルが確実に固定されているか確認してください。**

ハンドルの高さは4段の調節ができます。

1. ハンドル高さ調節レバーを押すと、ハンドルが上下に自由に動きます。
2. ハンドル高さ調節レバーを離すと固定されます。このときハンドルが固定されていることを確認してください。



1AFAEAEAP003E

補足

***ハンドルを少し持上げた状態で、レバーを押してください。**

PTOレバー

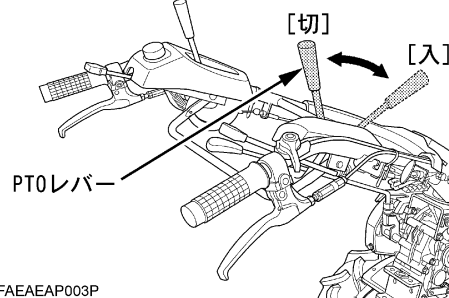


警告

***PTOを使用しないときは、PTO軸力バーを装着してください。**

ロータリに伝わる動力を断続します。

1. レバーを**【入】**位置にすると、ロータリへの動力伝達が入り、回転します。
2. レバーを**【切】**位置にすると、ロータリへの動力伝達が切れ、回転が止まります。



1AFAEAEAP003P

各部の名称と装置の取扱い

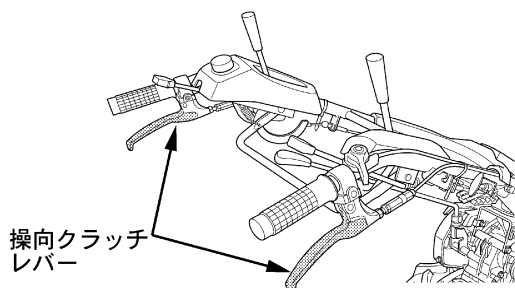
操向クラッチレバー [S, SC仕様]



警告

***車両への積降ろし時や坂道では、絶対に操作しないでください。**

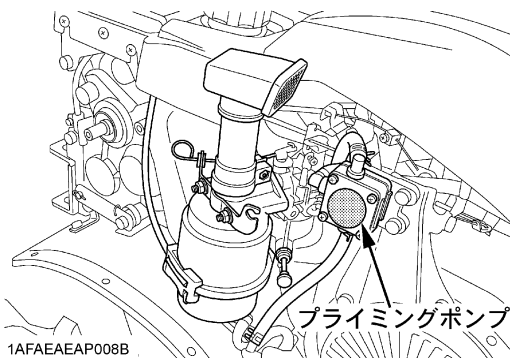
- 右側のレバーを握る…右側に旋回します。
- 左側のレバーを握る…左側に旋回します。



1AFAEAEAP003G

プライミングポンプ

燃料をキャブレタに送込むポンプです。
燃料切れでエンジンが停止して、再び給油したときは、プライミングポンプを10回程度押して燃料をキャブレタへ送込んでから始動操作を行なってください。



1AFAEAEAP008B

補足

*通常のエンジン停止後の始動には、プライミングポンプの操作は不要です。

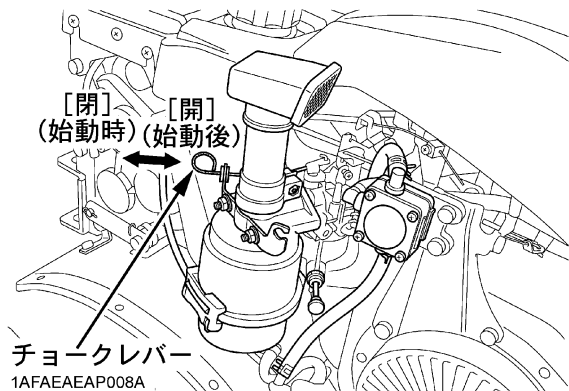
スタンドレバー

- スタンドレバーを前に出す…スタンドが前に出ます。
- スタンドレバーを手前に引く…スタンドが収納します。

チョークレバー

エンジンがかかりにくいときに使用します。

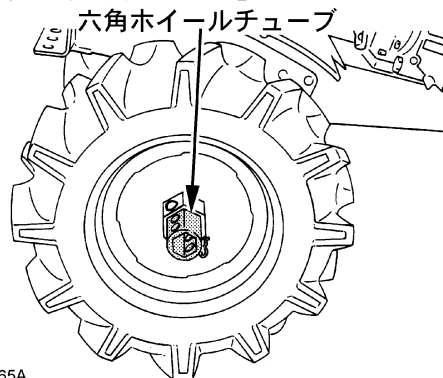
1. **始動時**…レバーを引く。(チョーク【閉】)
2. **始動後**…レバーを押す。(チョーク【開】)



1AFAEAEAP008A

六角ホイールチューブ [N仕様以外]

作業に応じて輪距の調節ができます。(詳細は【輪距の調節, 車輪交換のしかた】24ページを参照)



1AFAEAAAP065A

各部の名称と装置の取扱い

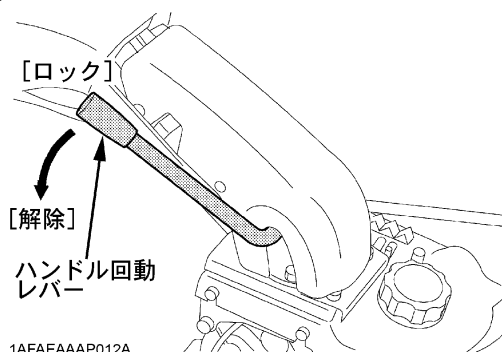
ハンドル回転レバー



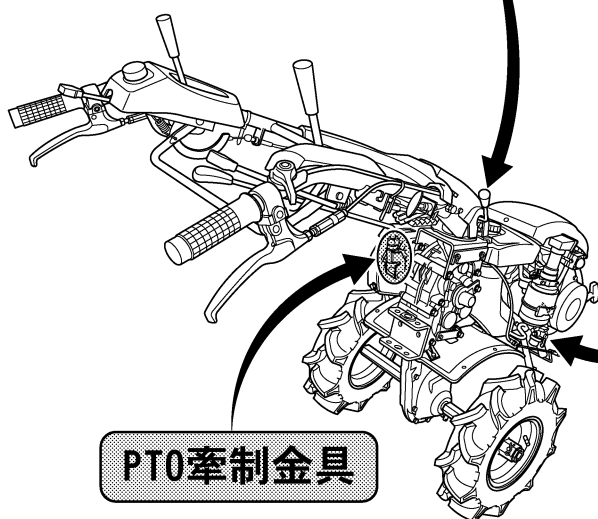
警告

- *エンジンを必ず停止し、平たんな場所にスタンドを立て、安定させて行なってください。
- *各レバーが正常に動くか確認してください。
- *ハンドルを逆位置にしたときは、必ず後進牽制ボルトを銘板の【逆】印の位置にして固定します。
- *ハンドルを正位置に戻したときは、後進牽制ボルトを元（【正】位置）に戻し、PTO牽制金具の位置を元（【入】位置）に戻してください。【S, SC仕様】
- *操向クラッチは必ず切替えてください。

ハンドル回転レバーを矢印方向に操作することにより、ハンドルを正位置又は逆位置に回することができます。また、ハンドルが正位置と逆位置でそれぞれ右側1段、左側1段、角度調節することができます。

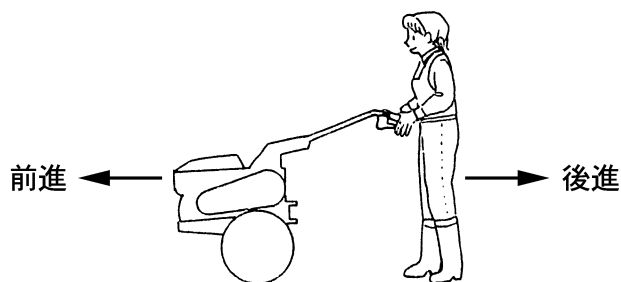


1AFAEAAAP012A



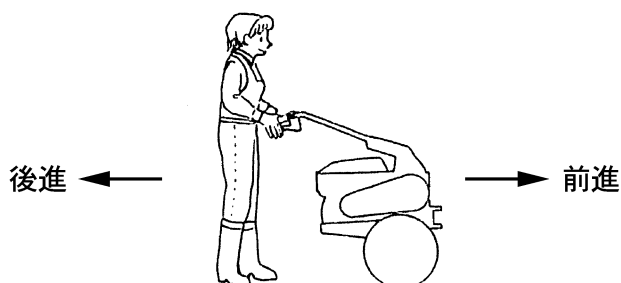
PTO牽制金具

ハンドル正



1AFADAAAP009A

ハンドル逆



1AFADAAAP010A

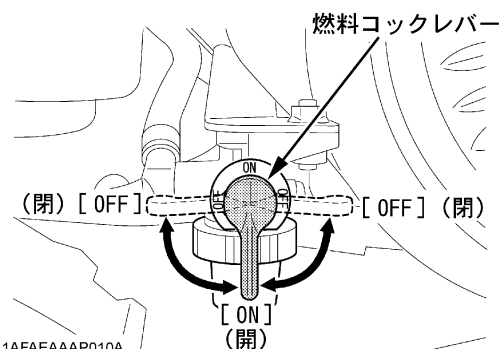
燃料コック（レバー）

重要

*コックを開いた状態で、前に倒したり車両で運搬すると、エンジン始動が困難になる場合があります。

燃料タンクからエンジンへ燃料の【供給】・【停止】をします。エンジン停止後、必ず燃料コックを閉めてください。

1. 【OFF】（閉）…燃料停止。
2. 【ON】（開）…燃料供給。

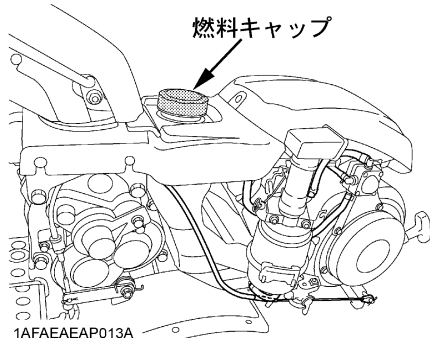


1AFAEAAAP010A

各部の名称と装置の取扱い

燃料タンク・燃料キャップ

- 燃料タンクの下限まで液面がきましたら燃料を補給してください。
- 燃料キャップから自動車用レギュラーガソリンを補給します。（規定量2.8L）



補 足

* 給油口の赤色ゲージ以上に燃料を入れないでください。

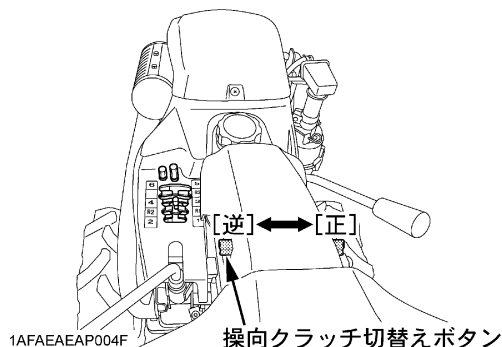
操向クラッチ切替えボタン[SC仕様]



警 告

***切替え後、確実に作動するか確認してください。**

ハンドル位置を変えるとき同時に切替えます。



主変速レバー

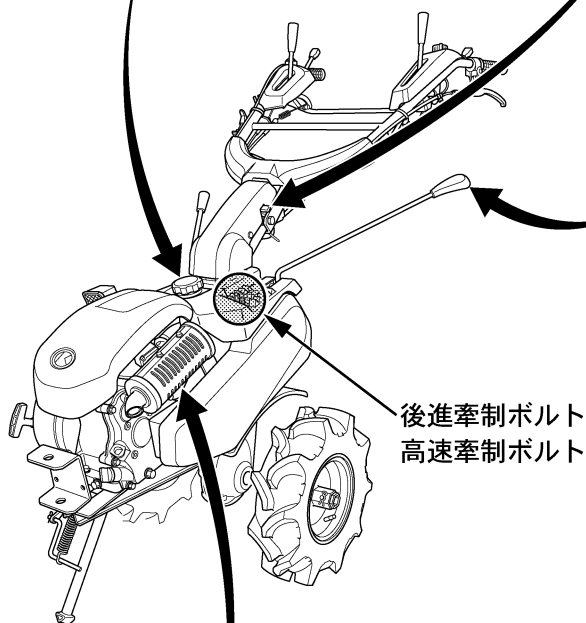


警 告

- * エンジンを始動する前に、必ずレバーを【中立】にしてください。
- * 変速操作は主クラッチを【切】ってから行なってください。
- * 走行中は変速しないでください。

変速は案内板の表示位置に合わせてシフトします。
変速段数は下表参照

		TA500N	TA700N	TA800N
ハンドル正位置時	前進	4 段	6 段	6 段
	後進	2 段	3 段	3 段
ハンドル逆位置時	前進	4 段	4 段	4 段
	後進	2 段	3 段	3 段



マフラ



警 告

***マフラに手でふれないでください。
ヤケドをするおそれがあります。**

■各部の名称と装置の取扱い (補足項目) 参照ページ

- (1) スタンド（スタンドレバー）13
- (2) PT0レバー13
- (3) PT0牽制金具14
- (4) 主変速レバー.....14
- (5) 後進牽制ボルト.....15
- (6) 高速牽制ボルト.....16
- (7) リコイルスタータ.....16
- (8) 燃料キャップ.....16
- (9) ハンドルの回動.....17

運転のしかた

新車時の扱いかた

■ならし運転（最初の 10 時間まで）

この期間中は各部になじみをつけるため、エンジンを高速回転させたり、過酷な使用はさけ無理をさせないようにしてください。

運転前の点検

■運転前の日常点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回、運転前に欠かさず行なってください。

（詳細は【日常点検】27 ページを参照）

エンジンの始動と停止のしかた

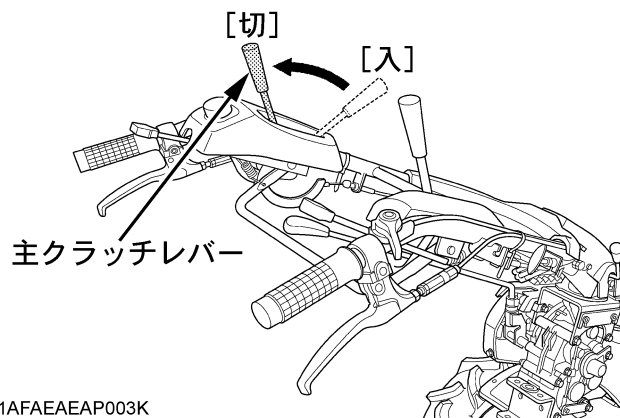
■始動のしかた



警告

- * マフラの排気出口方向に、燃えやすい物を置かないでください。火災が発生する原因となります。
- * リコイルスタータを引張る方向に人がいないか、突起物・障害物がないか確かめてから始動してください。傷害事故のおそれがあります。
- * エンジンの運転中は、危険ですから操作レバー以外の物（マフラなど）には、触れないでください。ヤケドや傷害のおそれがあります。
- * 夜間作業はしないでください。
- * エンジンを始動するときは、主クラッチレバーを必ず【切】にしてください。
- * 主変速レバーを【中立】にしてください。

1. 主クラッチレバーを【切】にしてください。



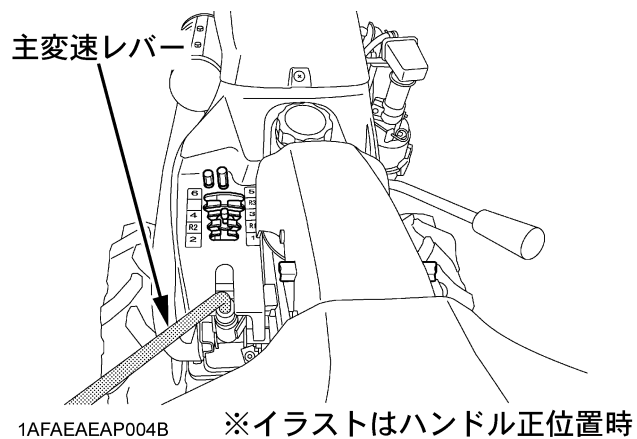
1AFAEAEAP003K

補 足

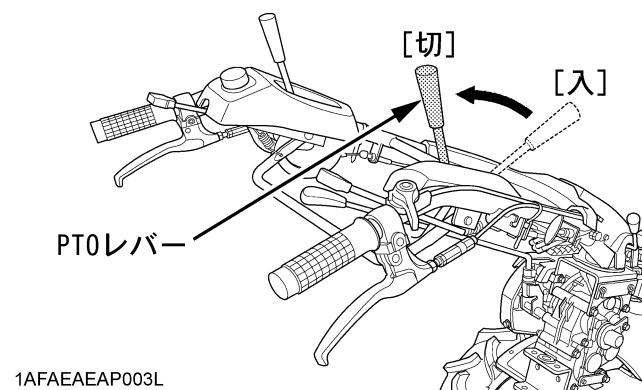
- * 主クラッチレバーが【入】では、始動牽制装置が作動してエンジンは始動しません。

運転のしかた

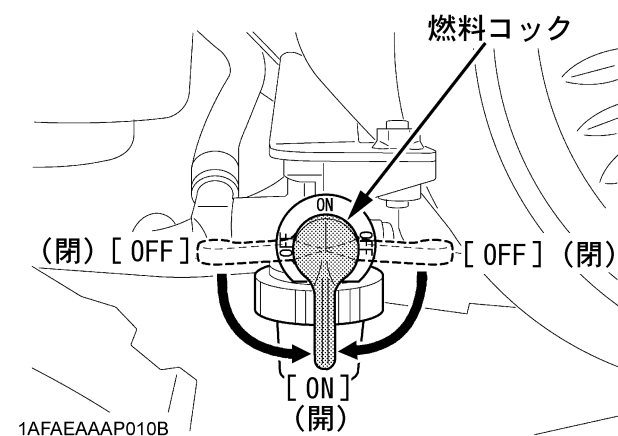
2. 主変速レバーを【中立】にしてください。



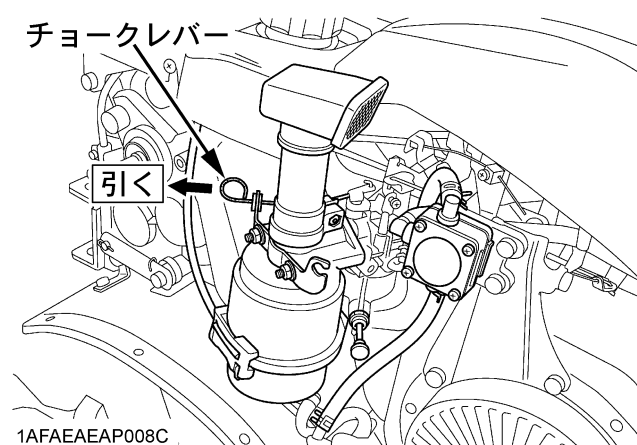
3. PTO レバーを【切】にしてください。



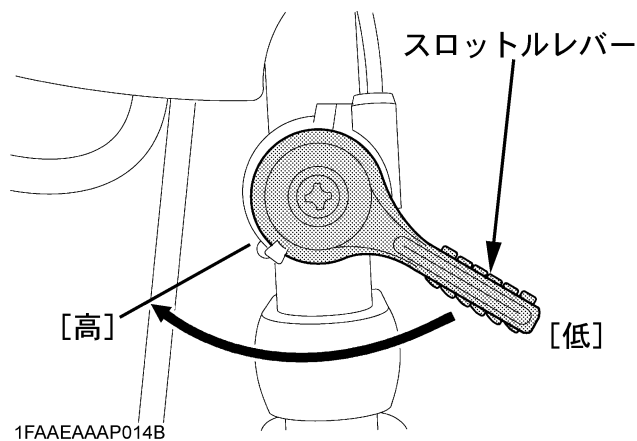
4. 燃料コックを【ON】（開）にしてください。



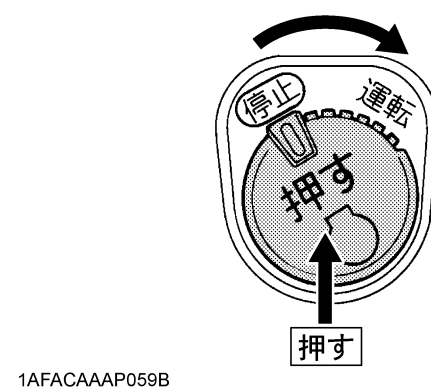
5. チョークレバーを引きます。



6. スロットルレバーを【高】にします。



7. メインスイッチを押しながら【運転】位置まで回します。



8. リコイルスタータハンドルを握って、引張ります。
エンジンが始動したら、リコイルスタータハンドルを静かに元に戻します。
9. エンジンの運転状態を確認しながら、チョークレバーを徐々に【開】の位置に戻します。
10. 2～3分暖気運転をしてから、作業を始めます。

重 要

- * 運転中はリコイルスタータを引かないでください。

補 足

- * 主クラッチレバーが【入】の状態ではエンジンを始動することはできません。

■プライミングポンプの操作のしかた

エンジンへの燃料供給に、プライミングポンプを採用しています。

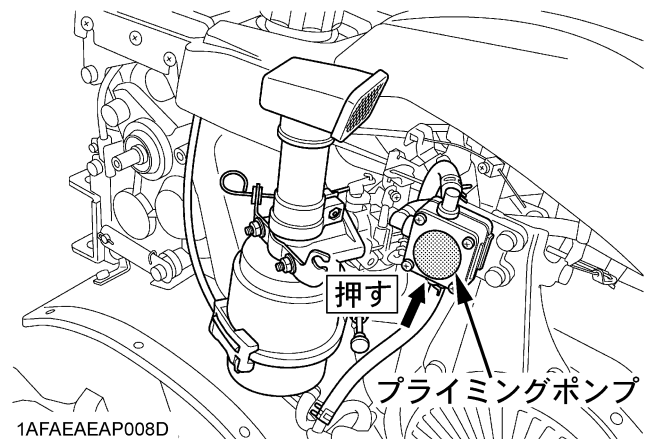
下記の条件のときに、プライミングポンプを操作します。

- 初めて燃料を入れて始動するとき。
- 燃料切れでエンジンが停止して、再び給油したとき。
- 長期保管後。

◆ 操作のしかた

プライミングポンプを 10 回程度くり返して押します。

燃料をキャブレタへ送込めない場合は、給油口の赤色ゲージまで燃料を給油し、再度プライミングポンプを押します。



補 足

- * 通常のエンジン停止後の始動には、プライミングポンプの操作は不要です。

運転のしかた

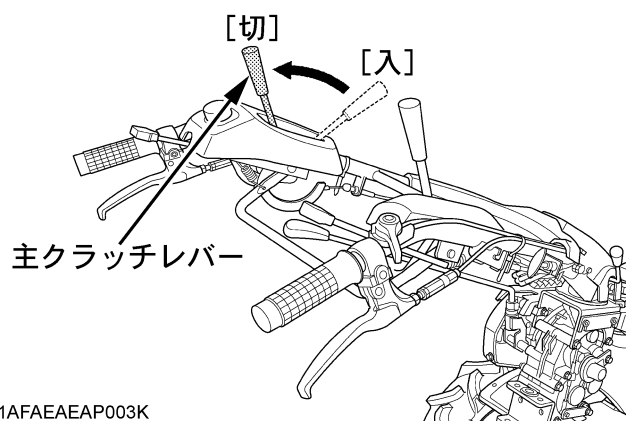
■停止のしかた



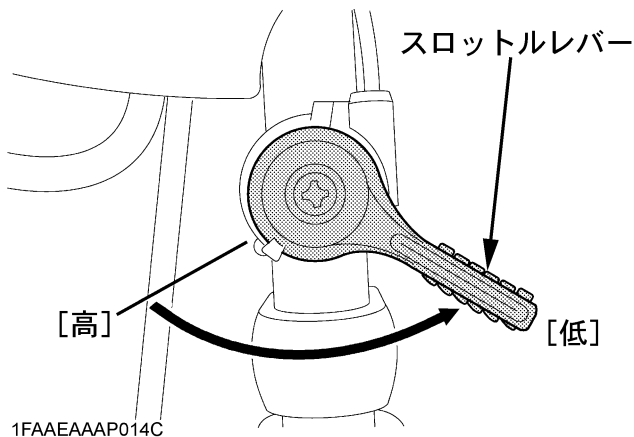
警告

* 停止直後はしばらくマフラが熱くなっています。手を触れないでください。ヤケドのおそれがあります。

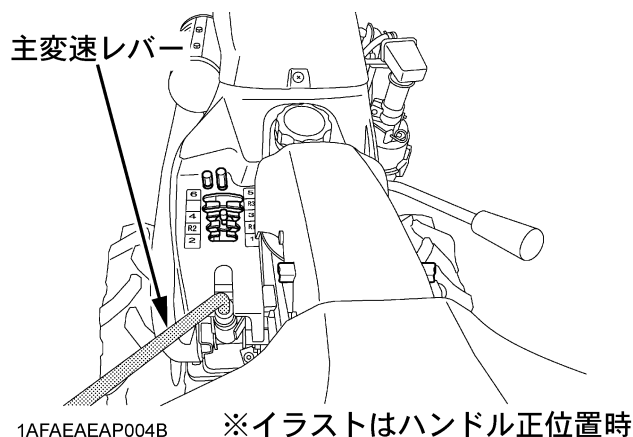
1. 主クラッチレバーを **[切]** にしてください。



2. スロットルレバーを **[低]** にしてください。

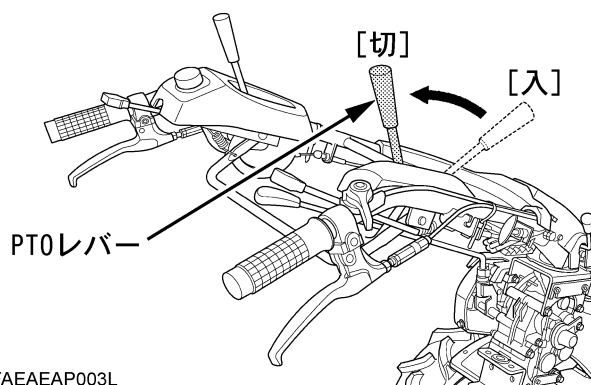


3. 主変速レバーを **[中立]** にしてください。

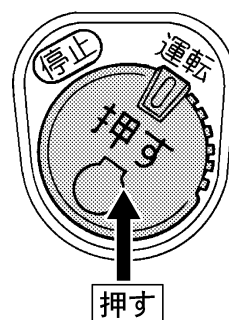


※イラストはハンドル正位置時

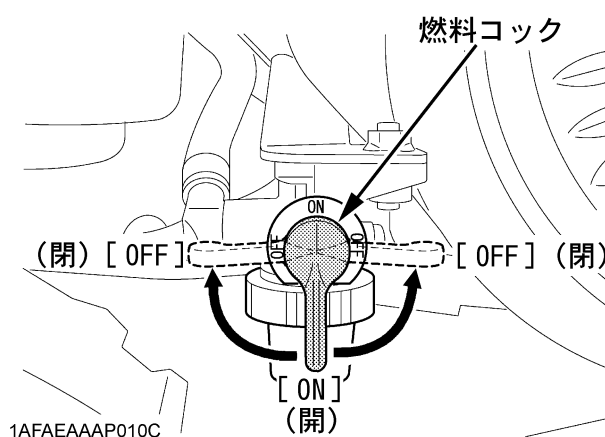
4. PTO レバーを **[切]** にしてください。



5. メインスイッチを押すと左に回って **[停止]** 位置に戻り、エンジンが停止します。



6. 燃料コックを **[OFF] (閉)** にします。



重要

* 燃料コックレバーを開いたままの状態では保管したり、車両で運搬したりすると、エンジン始動が困難となる場合があります。また、クランクケース内へガソリンが流入することもあります。

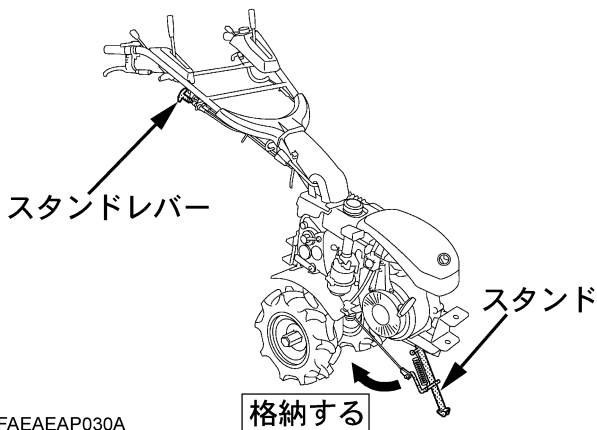
発進のしかた



警告

- * 運転中は周囲に人を近づけないでください。傷害事故のおそれがあります。
- * 傾斜地での運転や後進するときなどは、ハンドルが持上がり、体や首をはさまれるなどのおそれがありますので、主クラッチをゆっくり操作してください。
- * 狭い場所での運転や後進の運転については、エンジンの回転を低速にし、後方や上方など周りの安全を確かめゆっくりと主クラッチ操作をしてください。
- * 後進牽制が確実に作動するか確認してください。
- * 後進牽制している変速位置には、無理にレバー操作をしないでください。
- * ロータ装着時は後進禁止です。

1. スタンドレバーを引き、スタンドを格納します。

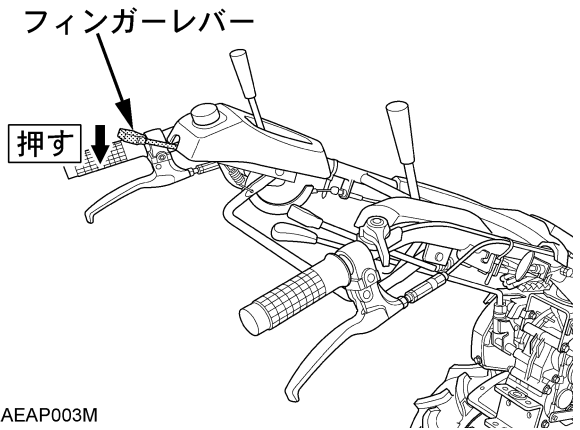


2. 主クラッチレバーが【切】の位置にあることを確認した後、主変速レバーを必要な変速位置にします。

3. 主クラッチレバーを【入】にして発進します。

補 足

- * フィンガーレバーを下に押すと、ハンドルを握ったまま主クラッチを入れることができます。



4. スロットルレバーを操作して速度を調整します。

作業のしかた

上手な作業のしかた

下記操作手順を守り安全作業を心がけてください。

■作業前の準備

＊【各部の名称と装置の取扱い】及び【各部の調節】を参照して、作業目的に合わせた設定を行なってください。

■耕うん作業手順

1. 主クラッチレバーを【切】位置にします。
2. ハンドル高さ調節レバーを押し、作業しやすい位置にハンドル高さを調節します。
3. 主変速レバーを作業に応じた位置に入れます。
4. スロットルレバーでエンジン回転を調整します。
5. PT0 レバーを【入】位置にしてから主クラッチレバーを【入】位置にし、発進してください。
6. スロットルレバーを操作し、速度やロータリ回転数を調整します。
7. 変速するときは必ず主クラッチレバーを【切】位置にしてから行なってください。

■耕うん作業での旋回手順

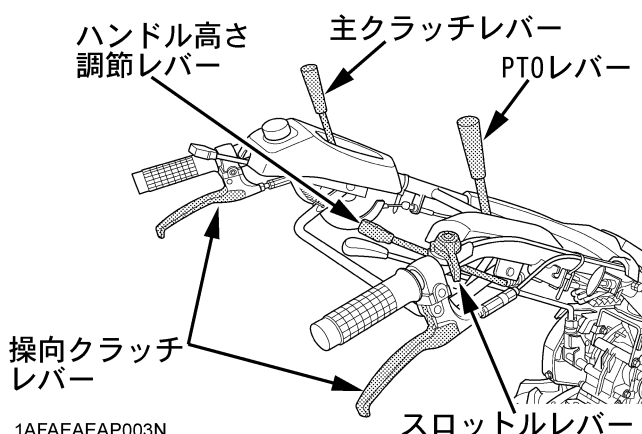
◆ ハンドル【正】位置

1. スロットルレバーを【低速】にします。
2. PT0 レバーを【切】にして、ロータリ回転を止めます。
3. ハンドルを持ち上げ、操向クラッチレバーの【左・右】の曲がりたい方向を握り旋回します。
4. 旋回後、操向クラッチレバーを離し、スロットルレバーで再度エンジン回転を調整します。
5. ハンドルを押し下げ、PT0 レバーを【入】位置にして作業を行ないます。

◆ ハンドル【逆】位置

ハンドル逆向きで旋回の場合は、ハンドル高さ調節レバーによりハンドル位置を上げて、ハンドルを押し下げ、曲がりたい方向の操向クラッチレバーを握り旋回します。

他の手順はハンドル【正】位置と同じです。

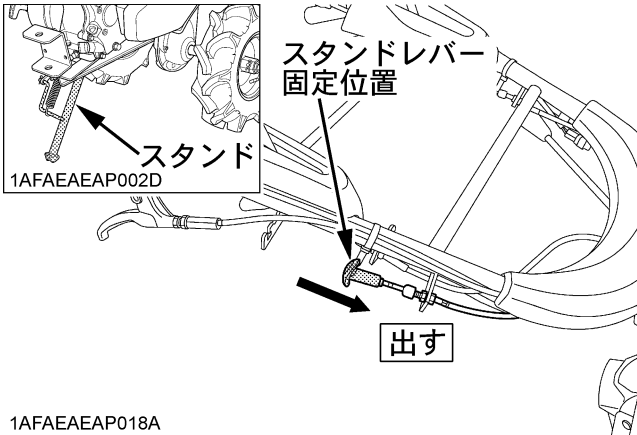


各部の名称と装置の取扱(補足項目)

■ スタンド (スタンドレバー)

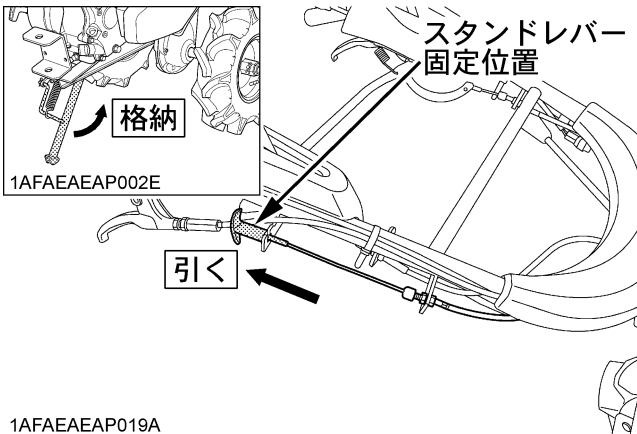
◆ 立て方

スタンドレバーを前に出すとスタンドが立ちます。



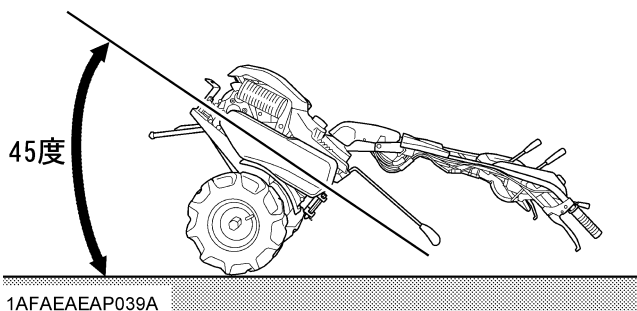
◆ 格納のしかた

スタンドレバーを手前に引くと格納します。



重 要

* オイル漏れのおそれがありますので、本機を45度以上傾けないでください。



■ PT0 レバー

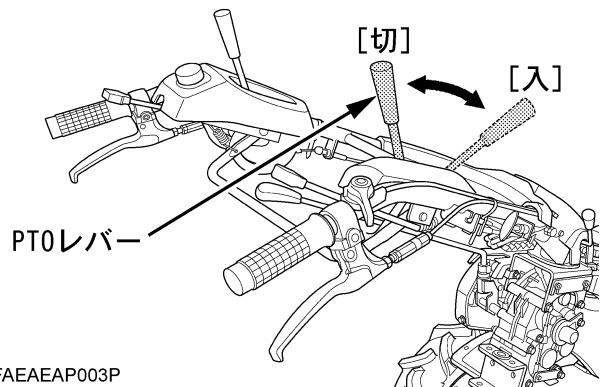


警 告

* PT0 を使用しないときは、PT0 軸力バーを装着してください。

ロータリに伝わる動力を断続します。

1. レバーを **【入】** 位置にするとロータリへの動力伝達が入り、回転します。
2. レバーを **【切】** 位置にするとロータリへの動力伝達が切れ、回転が止まります。



補 足

- * **【R】(後進)** 時には、PT0 レバーは **【入】** 位置に入りますが、ロータリは回転しません。
- * PT0 レバーが **【入】** の位置では、**【R】(後進)** に変速できません。

作業のしかた

■ PT0 牽制金具



警告

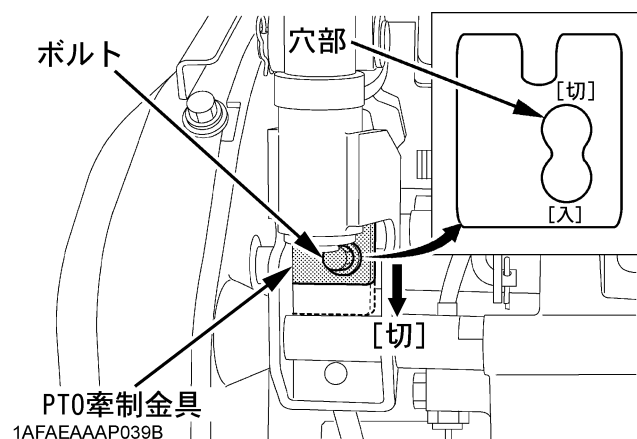
- * ハンドル正位置での作業時には、必ず PT0 牽制金具を元（[入] 位置）に戻してください。
- * PT0 牽制金具のボルトは、ハンドル位置に合わせて切替えたあと、確実に締付けてください。

PT0 レバーが [入] 位置では、[R]（後進）に変速できません。また、[R]（後進）時には、PT0 レバーは [入] 位置に入りますが、ロータリは回転しません。

ハンドル [逆] 位置の前進で作業をするときは、PT0 牽制金具を [切] 位置にしてください。

重要

- * ボルトを締付けるときは、必ずボルトの段付部を PT0 牽制金具の穴部に入れてください。



■ 主変速レバー



警告

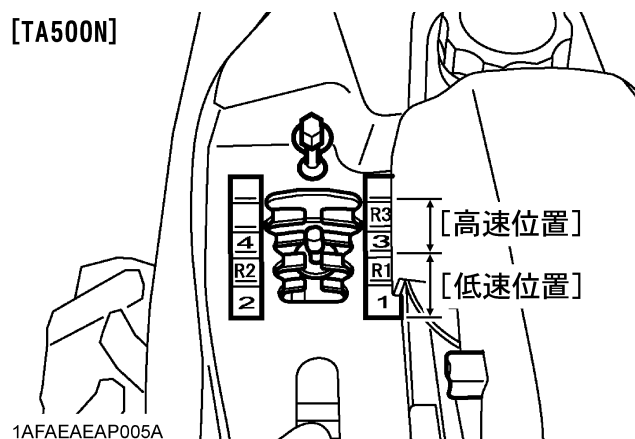
- * エンジンを始動する前に、必ずレバーを [中立] にしてください。
- * 変速操作は主クラッチを [切] ってから行なってください。
- * 走行中は変速しないでください。

変速は案内板の表示位置に合わせてシフトします。変速段数は下表参照。

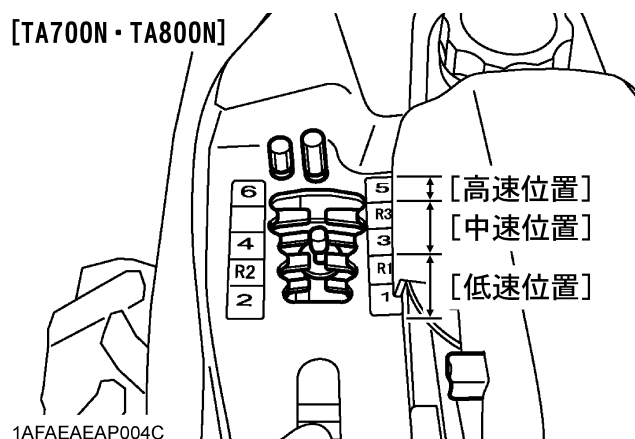
		TA500N	TA700N	TA800N
ハンドル正位置時	前進	4 段	6 段	6 段
	後進	2 段	3 段	3 段
ハンドル逆位置時	前進	4 段	4 段	4 段
	後進	2 段	3 段	3 段

1. レバー根元部を持上げて回転します。
2. 変速は案内板の表示位置に合わせてシフトします。
3. 低速・中速・高速（[TA500N] は低速・高速）位置の切替えは、**カチッ**と音がするまで操作します。

[TA500N]



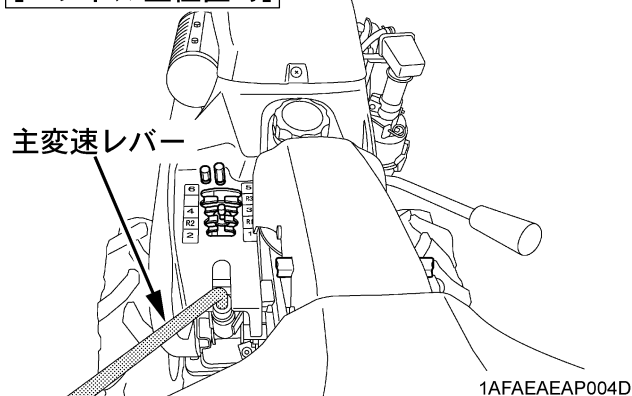
[TA700N・TA800N]



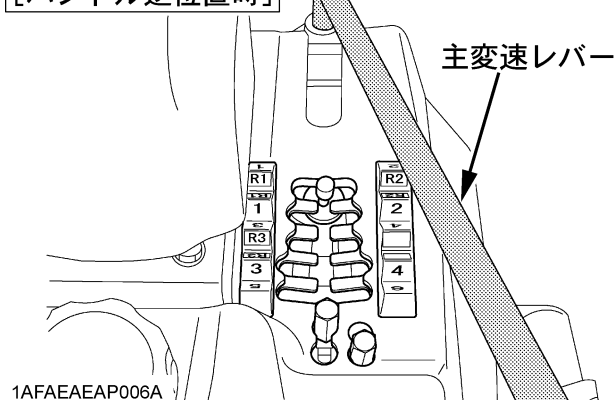
補足

- * [R] は後進を表します。

【ハンドル正位置時】



【ハンドル逆位置時】



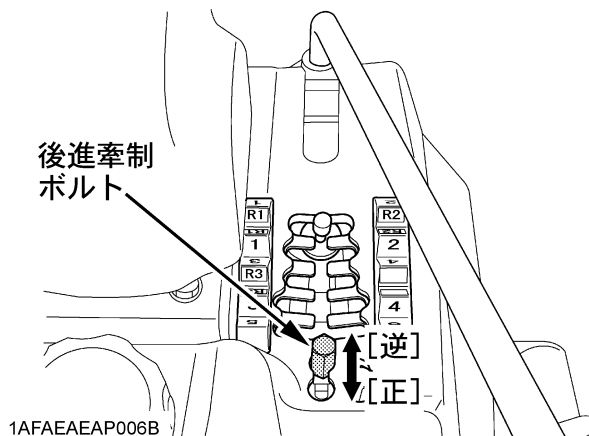
車速については、**付表**（39 ページ）を参照してください。

■後進牽制ボルト



- * ハンドルを逆位置にしたときは、安全のため、後進時高速走行とならないよう、必ず牽制金具をセットしてください。
- * ハンドルを正位置に戻したときは、後進牽制ボルトも【正】位置にして、牽制金具を元に戻してください。

1. 後進牽制ボルトをゆるめ、銘板の【正】位置から【逆】位置にして、牽制金具をセットします。
2. 後進牽制ボルトをしっかりと締付け、牽制金具を固定します。



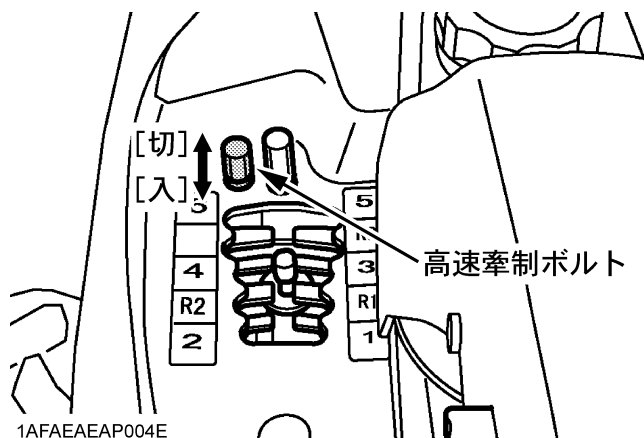
作業のしかた

■高速牽制ボルト



警告

- * 歩行時、前進 6 速はたいへん速く機体が飛び出しケガをするおそれがありますので、草刈りロータ（直径 300mm）作業以外は、必ず高速牽制ボルトを【入】の位置に固定してください。



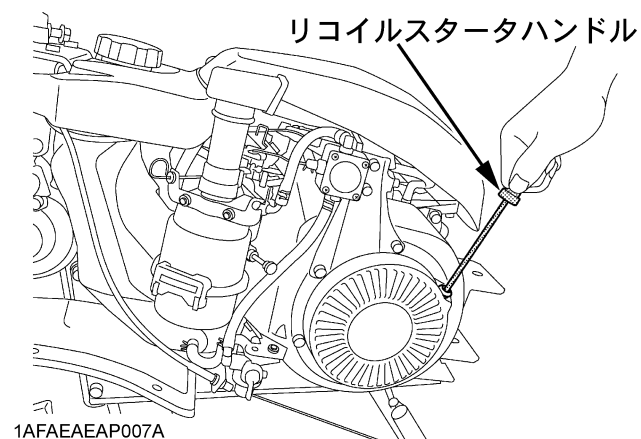
■リコイルスタータ



警告

- * リコイルスタータを引っ張る方向に人がいないか、突起物・障害物がないか確かめてから始動してください。傷害事故のおそれがあります。

エンジンの始動をします。
主クラッチレバーを【切】にし、リコイルを引張ると始動します。



補 足

- * 主クラッチレバーが【入】のときには、エンジンを始動できません。必ず【切】にしてください。
- * 主変速レバーを【中立】にして始動してください。

■燃料キャップ



警告

- * 給油するときはエンジンを停止し、エンジンやマフラがじゅうぶん冷えてから行なってください。
- * 火気厳禁。くわえ煙草での給油は絶対にしないでください。
- * 燃料がこぼれたときはきれいにふき取ってください。
- * 燃料は規定量（赤色ゲージ）以上入れないでください。
- * 給油後、燃料キャップはガソリンがもれないようしっかり締めてください。
- * 上記の作業をおこたると、爆発・火災のおそれがあります。

自動車用レギュラーガソリンを使用してください。

燃料の種類	規定容量
自動車用レギュラーガソリン	2.8 L

重 要

- * 燃料タンク内にゴミや水及びその他異物が混入しないように、注意してください。

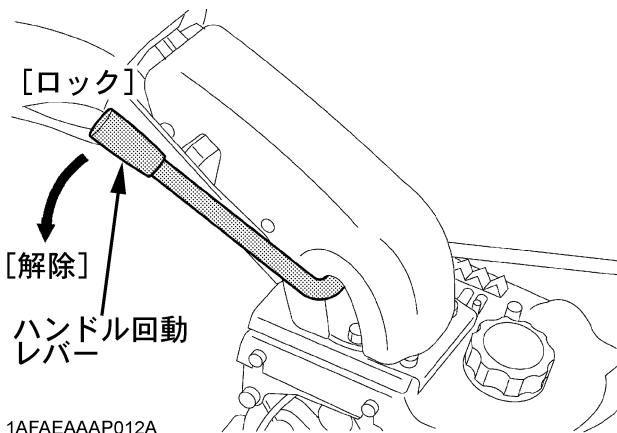
■ハンドルの回動



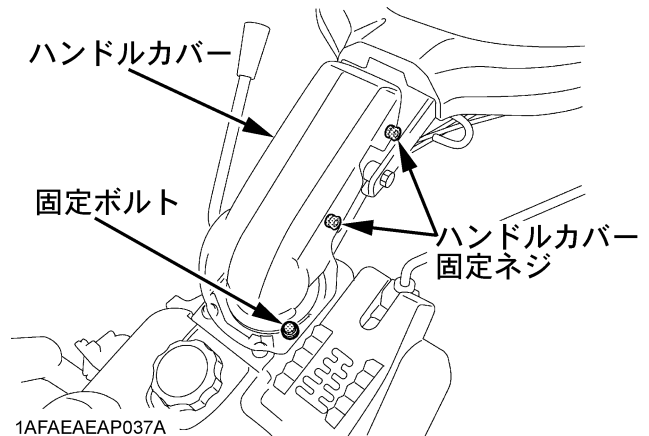
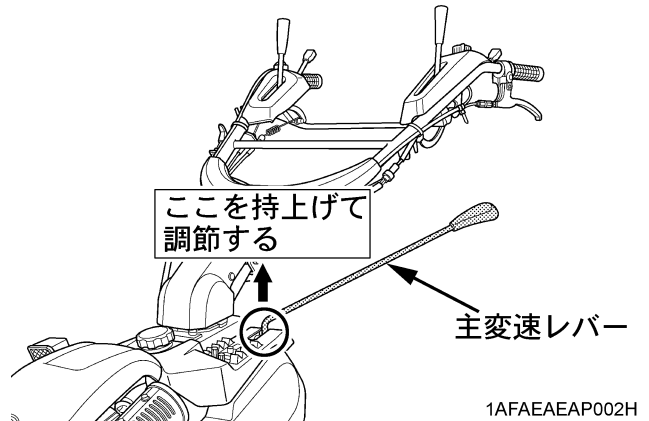
警告

- * エンジンを必ず停止し、平たんな場所にスタンドを立て、安定させて行なってください。
- * 各レバーが正常に動くか確認してください。
- * ハンドルを逆位置にしたときは必ず後進牽制ボルトを銘板の【逆】印の位置にして固定します。
- * ハンドルを正位置に戻したときは、後進牽制ボルトを元（【正】位置）に戻し、PTO 牽制金具の位置を元（【入】位置）に戻してください。
- * ハンドルを逆位置にしたときは、操向クラッチを必ず切替えてください。
【S, SC 仕様】

1. ハンドル回動レバーを矢印方向に操作することにより、ハンドルを正位置又は逆位置に回動することができます。また、ハンドルが正位置と逆位置でそれぞれ右側へ1段、左側へ1段、角度調節することができます。



2. 主変速レバーの根元を持上げて、ハンドルを調節した位置に合わせてセットします。



補 足

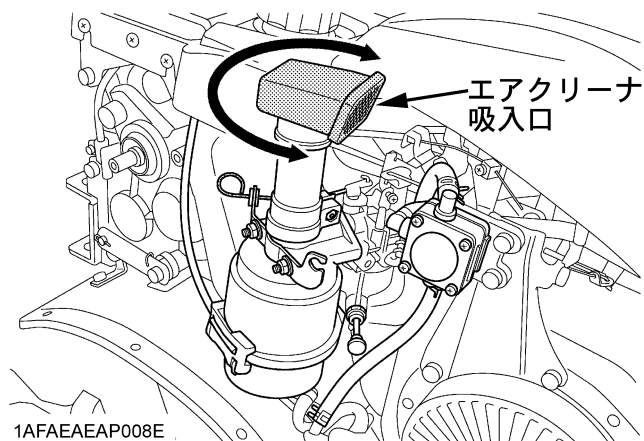
- * ハンドル【正】位置及び【逆】位置の中央位置で長期間使用するときは、ハンドルカバー固定ネジ（4箇所）をゆるめハンドルカバーを取外し、固定ボルトを必ず締付けてください。固定ボルト締付け後は、ハンドルカバーを元に戻してください。
(固定ボルトは付属品の中に入っています)

作業のしかた

各部の調節

■エアクリーナの調節

エアクリーナの吸込口が回動します。作業に応じ、チリやホコリの少ない方に吸込口の向きを変えてください。



■ハンドル高さの調節

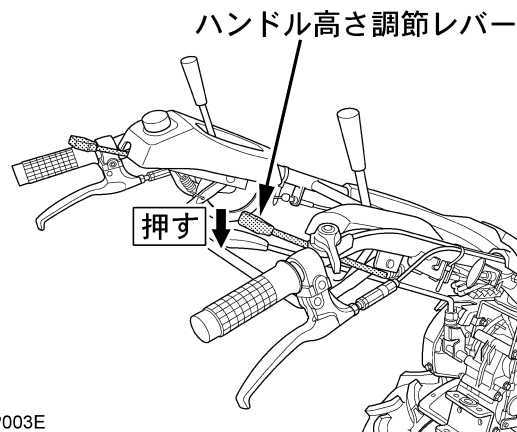


警告

- * 単体のとき…
ハンドル高さ調節レバーの操作は、必ずスタンドを立てて行なってください。
- * ロータリ付きのとき…
ロータリを持上げているときは、危険なため操作はしないでください。
- * 走行時・作業時…
危険のため操作はしないでください。
- * 操作するときは必ず主クラッチを切り、周囲を確認すると共にゆっくり操作し、操作後はハンドルが確実に固定されているか確認してください。

ハンドルの高さは4段の調節ができます。

1. ハンドル高さ調節レバーを押すとハンドルが上下に自由に動きます。
2. ハンドル高さ調節レバーを離すと固定されます。このときハンドルが固定されていることを確認してください。



■ハンドルの逆向き



警告

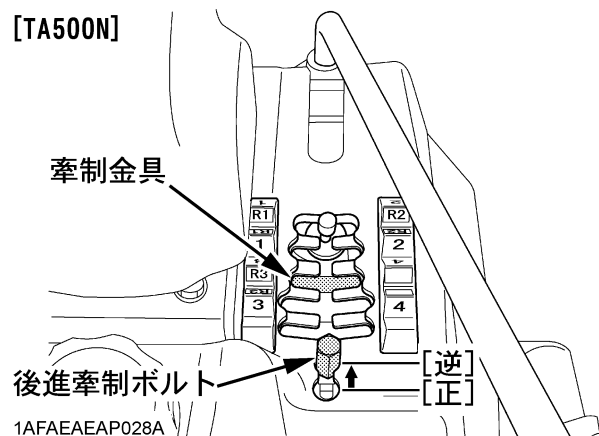
- * エンジンを必ず停止し、平たんな場所にスタンドを立て、安定させて行なってください。
- * 各レバーが正常に動くか確認してください。
- * ハンドルを逆位置にしたときは必ず後進牽制ボルトを銘板の【逆】印の位置にして固定します。
- * ハンドルを正位置に戻したときは、後進牽制ボルトを元（【正】位置）に戻し、PTO 牽制金具の位置を元（【入】位置）に戻してください。
- * 操向クラッチは必ず切替えてください。
【S, SC 仕様】

◆ ハンドル【正】位置から【逆】位置への切替え

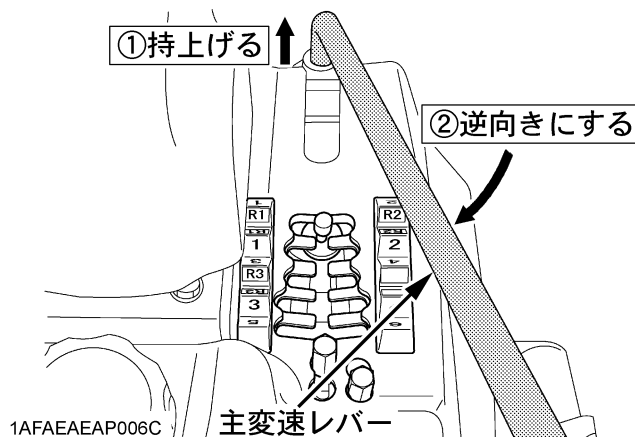
【S 仕様】

1. 後進牽制ボルトをゆるめ、【逆】位置にして固定します。

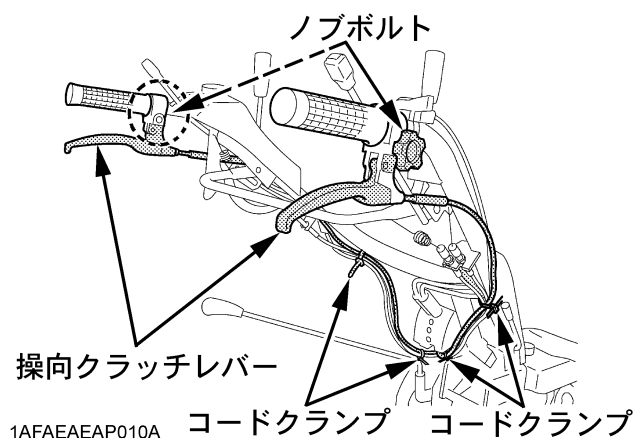
【TA500N】



2. 主変速レバーを【中立】にします。
3. 主変速レバーの根元を持上げて逆向きにします。



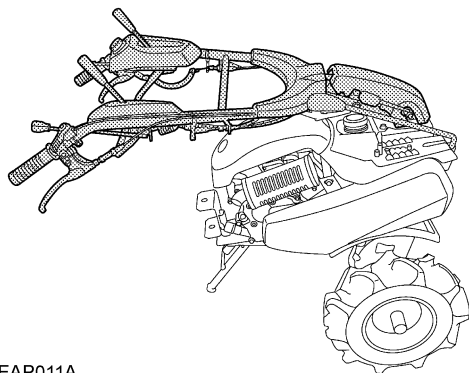
4. コードクランプを外します。
5. ノブボルトをゆるめて操向クラッチレバーとケーブルを外します。



作業のしかた

6. 操向クラッチレバーとケーブルを同時に左右入替え、取付けノブボルトを締付けます。
7. ハンドル回動レバーを【解除】方向に操作し、ハンドルを反時計方向（エアクリーナ側）へ回転し逆向きにします。

[ハンドル逆位置状態]



1AFAEAEAP011A

8. ハンドル回動レバーを【ロック】位置に戻します。
9. コードクランプ（4箇所）を取付けます。

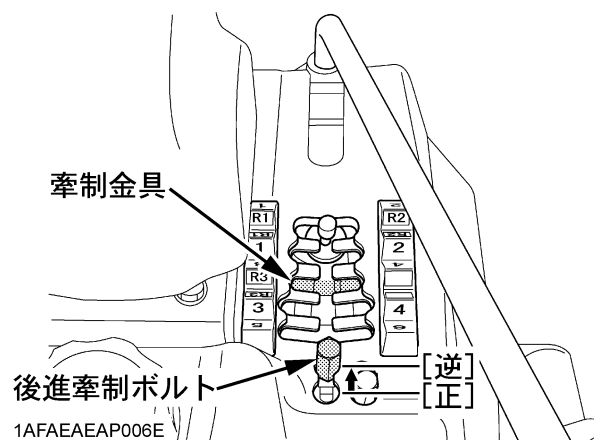
重要

- * 回動するとき、ケーブル類が引っ掛からないように、ゆっくり行なってください。
- * ハンドルは反時計方向に回動してください。逆に回動すると機械が破損することがあります。

[S仕様]

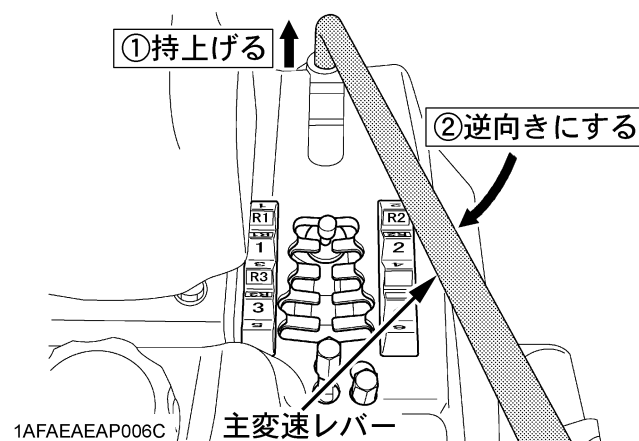
[SC仕様]

1. 後進牽制ボルトをゆるめ、【逆】位置にして固定します。



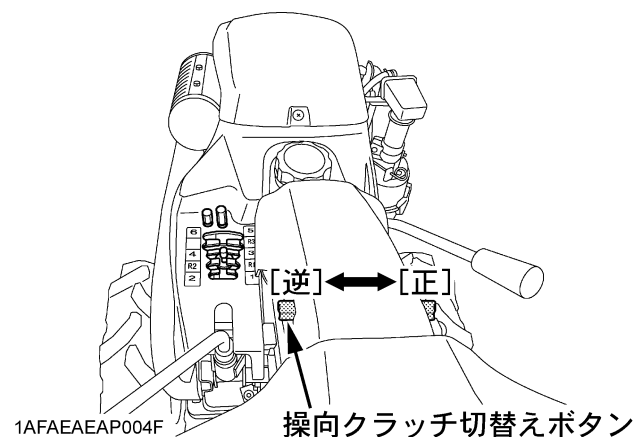
1AFAEAEAP006E

2. 主変速レバーを【中立】にします。
3. 主変速レバーの根元を持上げて逆向きにします。



1AFAEAEAP006C

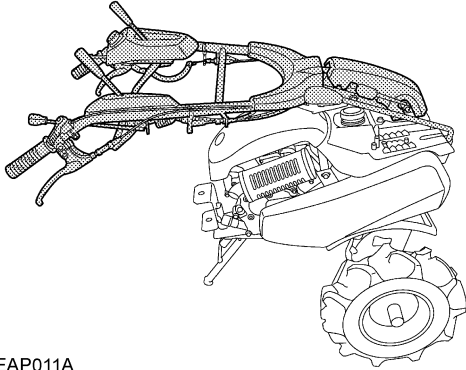
4. 操向クラッチレバーが戻っていることを確認し、操向クラッチ切替えボタンの【逆】の文字が見える方向にボタンを切替えます。



1AFAEAEAP004F

5. ハンドル回動レバーを【解除】方向に操作し、ハンドルを反時計方向（エアクリーナ側）へ回転し逆向きにします。

【ハンドル逆位置状態】



1AFAEAEAP011A

6. ハンドル回動レバーを【ロック】位置に戻します。

【SC 仕様】

【S, SC 仕様以外】

1. 後進牽制ボルトを【逆】位置にして固定します。
2. 主変速レバーを【中立】にします。
3. 主変速レバーの根元を持上げて逆向きにします。
4. ハンドル回動レバーを【解除】方向に操作し、ハンドルを反時計方向（エアクリーナ側）へ回転し逆向きにします。
5. ハンドル回動レバーを【ロック】位置に戻します。

【S, SC 仕様以外】

補 足

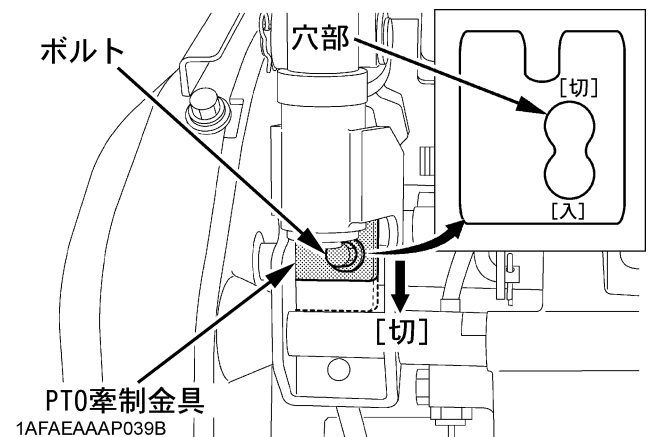
- * ハンドル【逆】位置の状態で前進で作業する場合、PTO レバーが【入】位置に入りますが PTO クラッチは入りません。

この場合、下記手順に従って PTO 牽制金具を解除してください。

1. 主変速レバーを【中立】位置にします。
2. ボルトをゆるめ、PTO 牽制金具の取付け位置を下に下げて固定します。

重 要

- * ボルトを締付けるときは、必ずボルトの段付部を PTO 牽制金具の穴部に入れてください。



警 告

- * ハンドルを【正】位置に戻して作業する場合は、必ず PTO 牽制金具を元（【入】位置）に戻して PTO 牽制金具をセットしてください。

後進時にロータリが回転し、傷害事故を起こすおそれがあります。

作業のしかた

◆ ハンドル【逆】位置から【正】位置への切替え



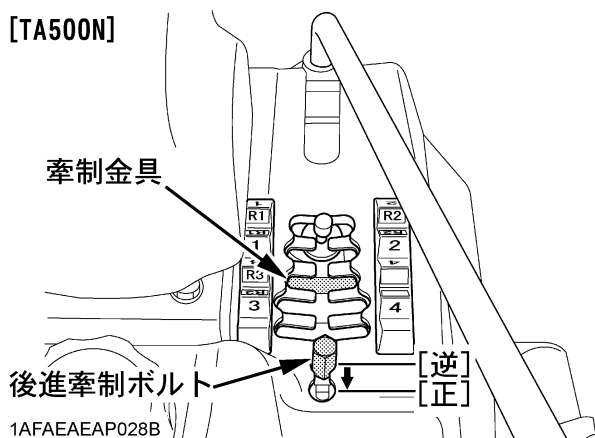
警告

* PTO 牽制金具を【切】にしている場合は、元（【入】位置）に戻してください。

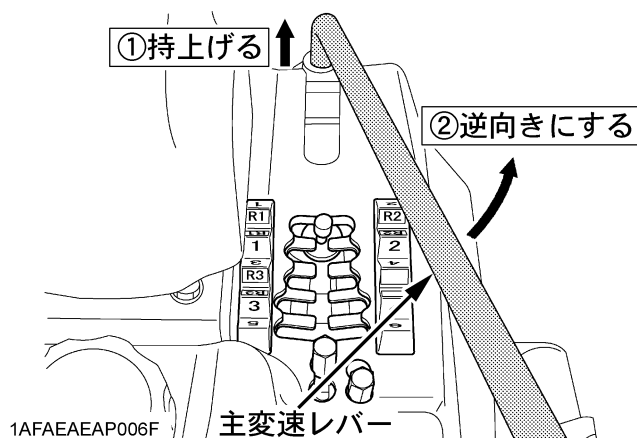
[S 仕様]

1. 後進牽制ボルトをゆるめ、【正】位置に固定します。

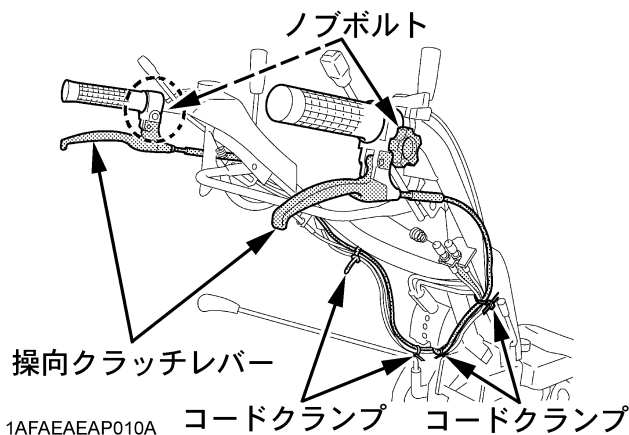
[TA500N]



2. 主変速レバーを【中立】にします。
3. 主変速レバーの根元を持上げて逆向きにします。

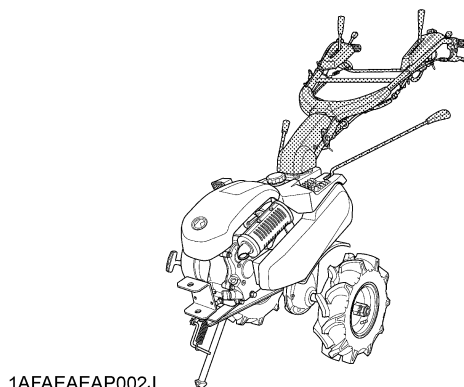


4. コードクランプを外します。
5. ノブボルトをゆるめて操向クラッチレバーとケーブルを外します。



6. 操向クラッチレバーとケーブルを同時に左右入替え、取付けノブボルトを締付けます。
7. ハンドル回転レバーを【解除】方向に操作し、ハンドルを時計方向（エアクリーナ側）へ回転し【正】位置にします。

[ハンドル【正】位置状態]



8. ハンドル回転レバーを【ロック】位置に戻します。
9. コードクランプ（4箇所）を取付けます。

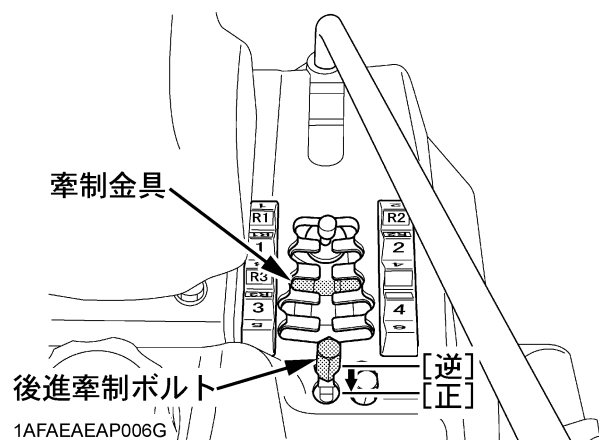
重要

- * 回転するときは、ケーブル類が引っ掛からないように、ゆっくり行なってください。
- * ハンドルは時計方向に回転してください。逆に回転すると機械が破損することがあります。

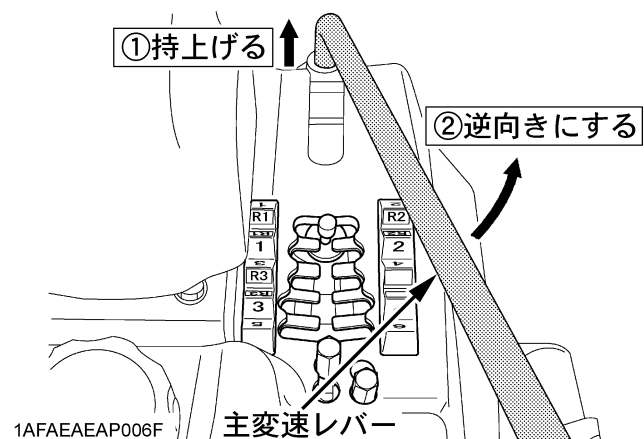
[S 仕様]

[SC 仕様]

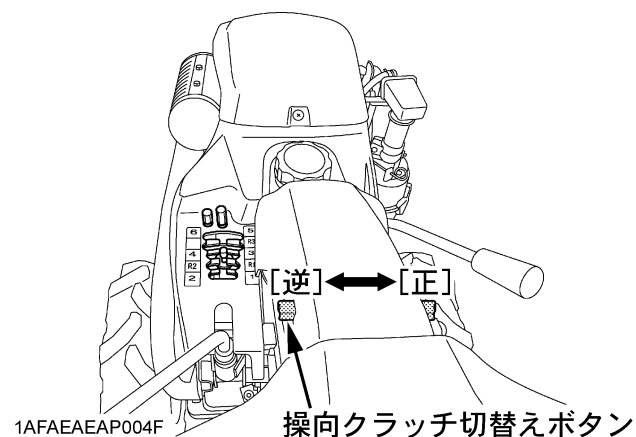
1. 後進牽制ボルトをゆるめ、**[正]** 位置に固定します。



2. 主変速レバーを **[中立]** にします。
3. 主変速レバーの根元を持上げて逆向きにします。

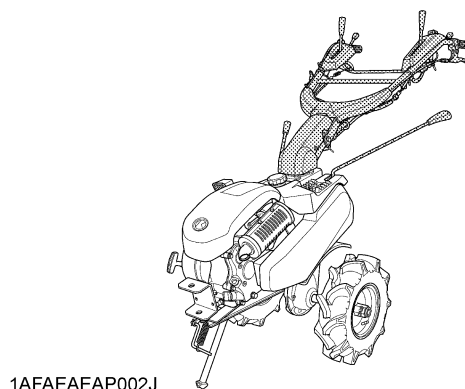


4. 操向クラッチレバーが戻っていることを確認し、操向クラッチ切替えボタンの **[正]** の文字が見える方向にボタンを切替えます。



5. ハンドル回動レバーを **[解除]** 方向に操作し、ハンドルを**時計方向**（エアクリーナ側）へ回転し **[正]** 位置にします。

[ハンドル**[正]**位置状態]



6. ハンドル回動レバーを **[ロック]** 位置に戻します。

重要

- * ハンドルは**時計方向**に回転してください。逆に回転すると機械が破損することがあります。

[SC 仕様]

[S, SC 仕様以外]

1. 後進牽制ボルトをゆるめ、**[正]** 位置に固定します。
2. 主変速レバーを **[中立]** にします。
3. 主変速レバーの根元を持上げて逆向きにします。
4. ハンドル回動レバーを **[解除]** 方向に操作し、ハンドルを**時計方向**（エアクリーナ側）へ回転し **[正]** 位置にします。
5. ハンドル回動レバーを **[ロック]** 位置に戻します。

[S, SC 仕様以外]

作業のしかた

■ 輪距の調節，車輪交換のしかた



警告

- * 輪距の調節時は，固い地面の平たんで安定した場所に停止してください。
- * エンジンを必ず停止してください。傷害事故のおそれがあります。

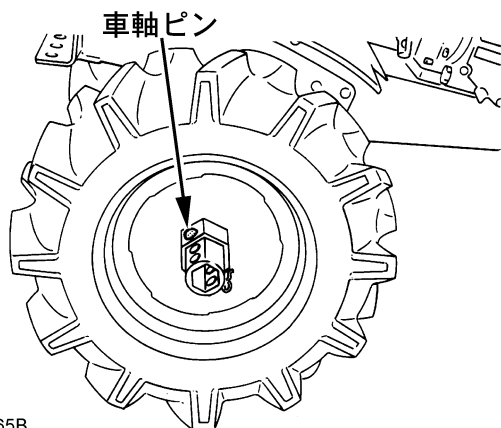
重要

- * ほ場以外での移動時は必ずタイヤを装着してください。（ロータ，鉄車輪などでのほ場外移動はしないでください。）
故障の原因となります。

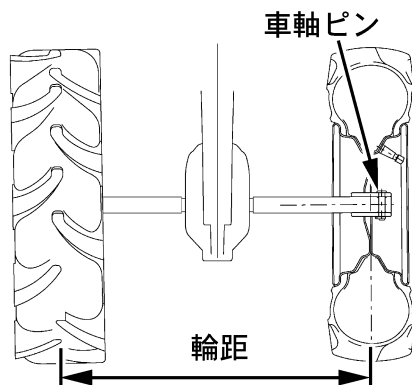
[N 仕様以外]

作業条件に応じて，輪距の調節と車輪交換は次のとおり行ないます。

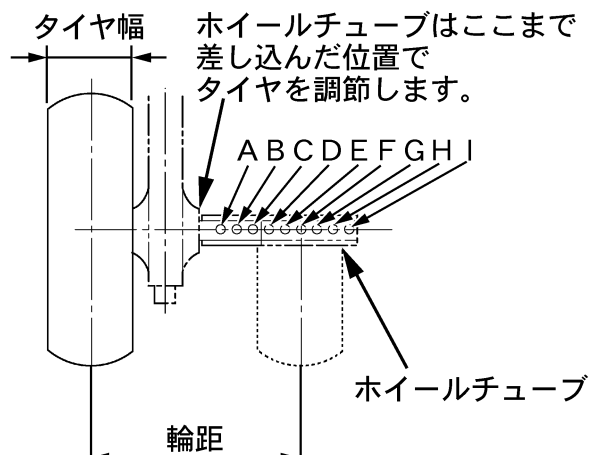
車輪ハブと六角ホイールチューブは，車軸ピン1本で取付けてありますので，ピンを抜いて，調節や交換を行なってください。



1AFAEAAAP065B



1AFAEAAAP046A



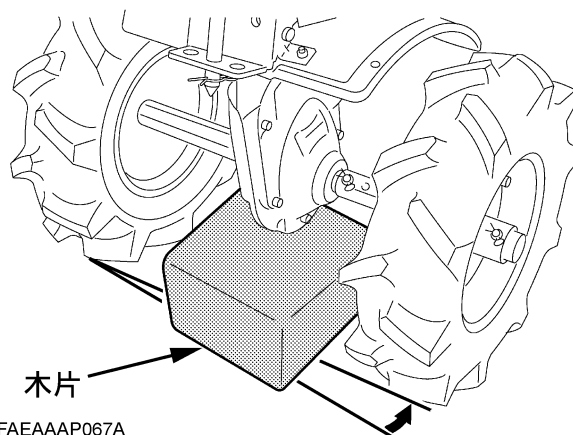
1AFAEAAAP044A

タイヤ サイズ	3.50-7 (K 仕様)		4.00-7 (J 仕様)	16 × 7.00-8 (W 仕様)
	S なし仕様	S 付き仕様		
ピン位置	輪距 [mm]			
A	—			
B	—			
C	—	190	190	—
D	200	240	240	265
E	250	290	290	315
F	—	—	340	365
G	—	—	390	415
H	—	—	440	465
I	—	—	490	515
タイヤ幅	99	—	111	180

※タイヤサイズ 3.50-7 はピン穴が5個です。

◆ 輪距の調節・交換の注意

固い地面にて丈夫な木片を用い，機体を安定させてから行なってください。



1AFAEAAAP067A

管理機の簡単な手入れと処置



警告

給油及び点検整備するときは

- * 給排油・点検・調節・清掃は、エンジンを停止し、エンジンやマフラがじゅうぶんに冷えてから行なってください。
- * 平たんな場所に機械を安定させて行なってください。
上記の作業をおこたると、障害事故のおそれがあります。

廃棄物の処理について



警告

廃棄物をみだりに捨てたり、焼却しないでください。環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

廃棄物を処理するときは

- * 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
- * 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
- * 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、尿素水（AdBlue®）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリー、ゴム類、その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。

洗車時の注意



注意

洗淨ノズルを拡散にし、2 m 以上離して洗車してください。

もし、直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、

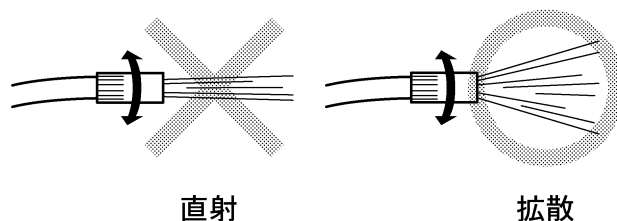
1. 電気配線部被覆の損傷・断線により、火災のおそれがあります。

重要

- * 洗車のしかたが不適切な場合、以下のような機械の破損・損傷・故障の原因になります。

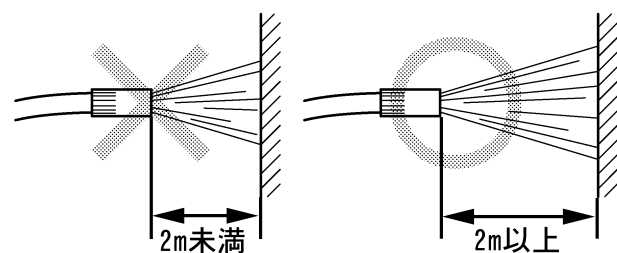
- [例] (1) シール・ラベルの剥がれ
(2) 電子部品、エンジン・トランスミッション室内などへの浸入による故障
(3) オイルシールなどのゴム類、樹脂類の破損
(4) 塗装、メッキ面の皮膜剥がれ

直射洗車厳禁



1AGACBRAP067A

近距離洗車厳禁



1AGACBRAP068A

管理機の簡単な手入れと処置

定期点検箇所一覧表

重 要

* 専門的な技術や手入れなどでご不明な点は、購入先にご相談ください。

No.	項目		条件	使用時間	参 照 ページ
1	主クラッチケーブルの調節	調節	使用開始から	使用初期は10時間使用後。その後は必要に応じて。	33
2	エンジンオイル	交換	交換第一回目	20 時間使用後	29
			交換第二回目	50 時間使用後	
3	ミッションオイル	交換	交換第一回目	20 時間使用後	29
			交換第二回目	年一回	
4	エアクリーナ	エレメントの清掃	ホコリの多い場合	毎日	30
		エレメント（オイル）の交換	使用開始から	50 時間使用ごと	
5	燃料フィルタ	フィルタの清掃	使用開始から	100 時間使用ごと	31
		タンクの清掃	使用開始から	300 時間使用ごと	
6	点火プラグ	調節 / 清掃	使用開始から	6 ヶ月に 1 回	32
7	タイヤ空気圧	調節	空気圧異常時	必要に応じて	33
8	ハンドル上下調節	調節	動作異常時	必要に応じて	35
9	操向クラッチ調節	調節	動作異常時	必要に応じて	35
10	PTO ケーブル調節	調節	動作異常時	必要に応じて	35
11	スタンドの調節	調節	動作異常時	必要に応じて	36
12	スロットルレバー調節	調節	動作異常時	必要に応じて	35
13	燃料チューブ	交換	傷、亀裂があれば	必要に応じて	31
			使用開始から	2 年ごと（購入先にご相談ください）	
14	ファンカバーの清掃	清掃	ゴミやワラクズの付着があれば	必要に応じて	33

給油一覧表

■管理機の給油

給油項目	容量（L）	種類
燃料タンク	2.8	自動車用レギュラーガソリン
エンジン	[TA500N]0.5 [TA700N・800N]0.55	クボタ純オイル（ガソリンエンジン用） スーパー G 10W-30
ミッション	2.4	クボタ純オイル（ミッション用） NEW UDT, スーパー UDT2
エアクリーナ	オイルパンの規定量 (OIL LEVEL)	クボタ純オイル（ガソリンエンジン用） スーパー G 10W-30

日常点検



警告

- * 給油するときはエンジンを停止し、エンジンやマフラがじゅうぶん冷えてから行なってください。
- * 火気厳禁。くわえ煙草での給油は絶対にしないでください。
- * 燃料がこぼれたときはきれいにふき取ってください。
- * 燃料は規定量（赤色ゲージ）以上入れないでください。
- * 給油後、燃料キャップはガソリンがもれないようしっかり締めてください。
- * 上記の作業をおこたると、爆発・火災のおそれがあります。

■前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば、使用前に支障がないか点検してください。

■機械の周りを歩いて

1. ボルト・ナットのゆるみがないか確認してください。
2. 車体各部の変形や損傷を確認してください。
3. 油もれなど異常がないか確認してください。

■調子よく作業するために

◆ 燃料

1. スタンドを立てた状態で燃料を入れてください。
2. 自動車用レギュラーガソリンを補給します。
3. 燃料キャップを外し、給油口内の赤色ゲージを超えないように補給してください。

重要

- * 水やゴミを混入しないようにしてください。

◆ エンジンオイル

エンジンを水平にして給油プラグを外し、オイル給油口内側のオイルゲージで規定の範囲にあるか点検します。

油面が下限に近い場合は、クボタ純オイルを補充します。

（ガソリンエンジン用）スーパー G 10W-30

〔詳細は【エンジンオイルの交換】29 ページを参照〕

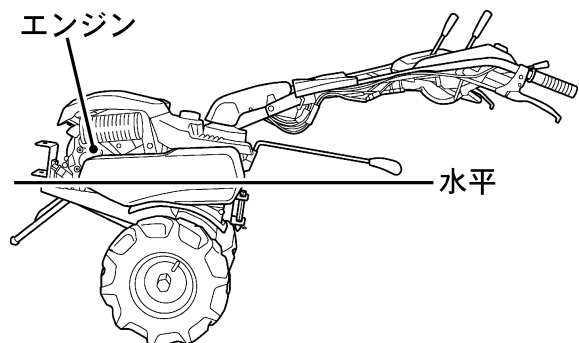
油量の点検時は、
ねじこまずに差しこみます

オイルゲージ

[H]マーク（上限）

[L]マーク（下限）

1AFACADAP018B



1AFAEAEAP038A

◆ ミッションオイル

エンジンを水平にして、検油プラグ位置まであるか点検します。

不足している場合は、クボタ純オイルを補充します。

（ミッション用）NEW UDT, スーパー UDT-2

〔詳細は【ミッションオイルの交換】29 ページを参照〕

◆ エアクリーナ

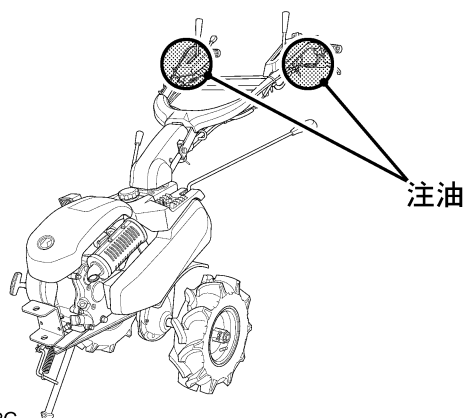
- エアクリーナエレメントにゴミが付着していないか点検します。
- 汚れている場合は清掃してください。

〔詳細は【エアクリーナエレメントの清掃】30 ページを参照〕

管理機の簡単な手入れと処置

◆ 各ケーブル

ケーブルのキャップを外し、エンジンオイルを注油してください。



1AFAEAEAP002G

◆ その他

- エンジン、ミッションなどから油もれがないか点検してください。
- 各しゅう動部へエンジンオイルを注油してください。
- 各部の損傷及びボルト・ナットのゆるみがないか点検してください。

■ 安全に作業するために

◆ 主クラッチレバー / 補助主クラッチレバー / PTO レバー

- クラッチの【入】・【切】が確実に行なえるか点検します。
- 不良の場合は調整・注油します。
〔詳細は【主クラッチケーブルの調節】33 ページ
【PTO ケーブルの調節】35 ページを参照〕

◆ フィンガーレバー

- フィンガーレバーのローラ部の清掃をこまめに行なってください。

◆ 主変速レバー

- 変速が案内板の表示位置で確実に行なえるか点検します。

◆ 高速牽制ボルト / 後進牽制ボルト / PTO 牽制金具

- 牽制ボルト及び金具の状態を確認してください。

◆ 電気配線

- 被覆が溶けたり被れていないか、また配線がはさまれていないか点検します。

◆ エンジン周辺部

- ファンカバーやマフラカバー内にゴミやワラクズの付着がないか点検します。

◆ 燃料

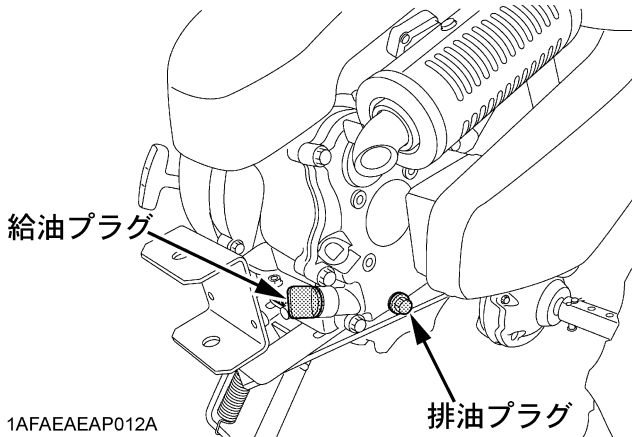
- タンクや燃料チューブからガソリンもれがないか点検します。
もれがある場合は、修理点検します。
- 自動車用レギュラーガソリンを補給します。
- タンク容量……規定量（赤ゲージ位置）以上入れないようにします。
- 給油後、ガソリンがもれないよう確実に燃料キャップを締めます。

使用時間に応じた点検・整備

■エンジンオイルの交換

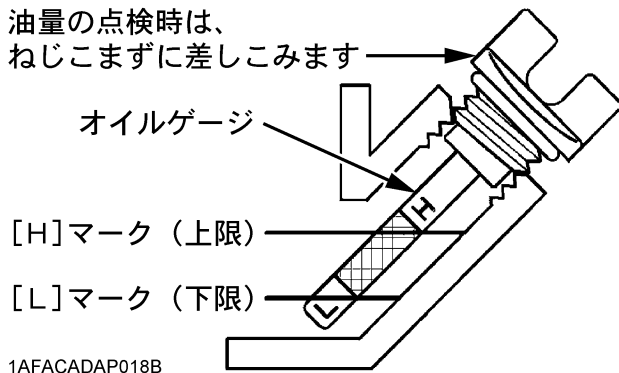
◆ 排油のしかた

エンジンを水平に安定させ排油プラグを外し、排油します。このとき、必ずオイルパン等で受けてください。



◆ 給油のしかた

エンジンを水平にして、オイルゲージを用いて規定量まで入れます。給油後はプラグを確実に締めてください。



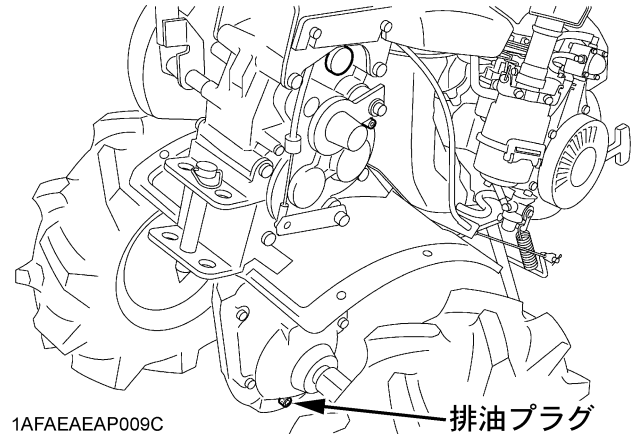
重 要

- * 粗悪なオイルを使用しますと、エンジンの寿命を急激に縮めますので、購入先でクボタ純オイル スーパー G 10W-30 とご指定の上、お求めください。
(詳細は【給油一覧表】26 ページを参照)
- * オイル給油後は、必ずオイルゲージを用いて上下限の範囲内にあるか確認してください。
- * 排油・検油・給油後はプラグを確実に締めてください。

■ミッションオイルの交換

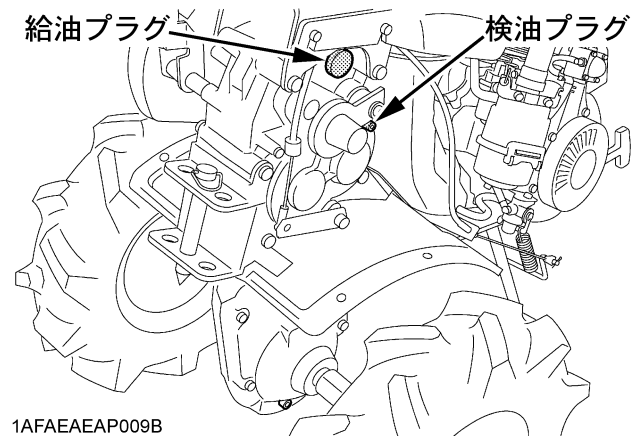
◆ 排油のしかた

ミッションオイル排油プラグを外して排油します。このとき、必ずオイルパン等で受けてください。



◆ 給油のしかた

エンジンを水平にし、検油プラグまで給油します。



重 要

- * 粗悪なオイルを使用しますと、機械の寿命を急激に縮めますので、購入先でクボタ純オイル NEW UDT, スーパー UDT-2 とご指定の上、お求めください。
[詳細は【給油一覧表】26 ページを参照]
- * 排油・給油後はプラグを確実に締めてください。

管理機の簡単な手入れと処置

オイルの点検と交換表

型式名		TA500N	TA700N	TA800N
エンジン オイル	オイル量	0.5L	0.55L	0.55L
	点検方法	エンジン水平		
	交換第1回目	20時間使用後		
	交換第1回目以後	50時間使用後		
	オイルの種類	クボタ純オイル（ガソリンエンジン用）スーパー G 10W-30		
ミ ツ シ ヨ ン オ イ ル	オイル量	2.4L		
	点検方法	エンジン水平		
	交換第1回目	20時間使用後		
	交換第1回目以後	年1回		
	オイルの種類	クボタ純オイル NEW UDT 又は スーパー UDT-2		

■エアクリーナエレメントの清掃とオイル交換

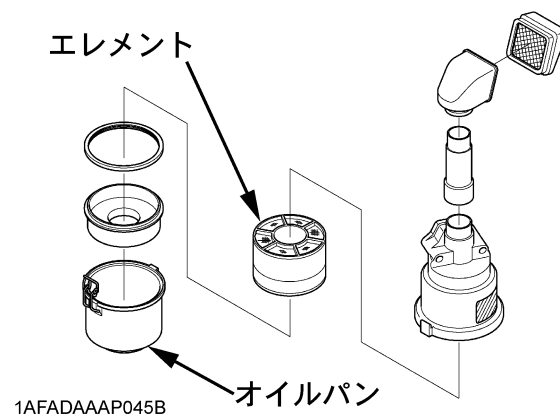
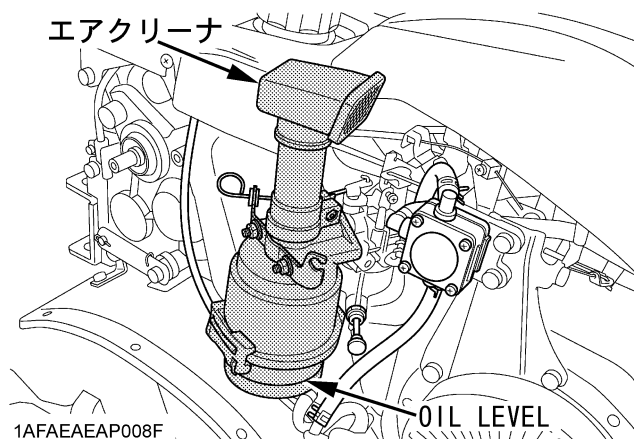
1. エレメントは時々白灯油で洗い、エンジンオイルを塗布して、よく振切ってから取付けてください。
2. オイルパンはよく洗浄し、新しいエンジンオイルを規定量入れてください。
 - 規定量…… **[OIL LEVEL]** と記載されているところ

重 要

- * エアクリーナを取外したままエンジンを運転しないでください。ゴミやホコリを吸い込み、エンジン不調やエンジン異常摩耗の原因となります。
- * 汚れたまま使用しますと、エンジンの出力低下や故障の原因になります。

エレメント (オイル)	清掃	通常	50時間ごと
		ホコリの多い場合	毎日
	交換	汚れがひどいとき	

- * チリやホコリが多く発生する土入れ作業などで使用する場合は、
 - (1) ホコリの少ない方向にエアクリーナ吸込口を向けてください。
 - (2) 毎日点検してください。
- * 規定量よりエンジンオイルを入れ過ぎると、エンジン不調の原因となります。



管理機の簡単な手入れと処置

■燃料フィルタの清掃

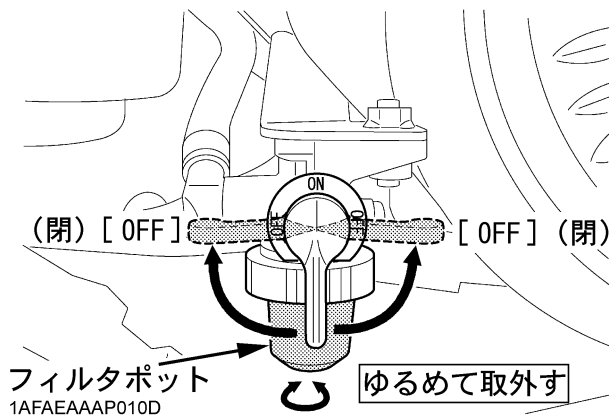


警告

* 取付け後、ガソリンもれがないか確認してください。

1. 燃料フィルタは、燃料のゴミを取除きます。取除かれたゴミは、ポットの底にたまります。
2. 燃料コックレバーを **[OFF]** にし、フィルタポットを外し、ポットの底にたまっているゴミや水を捨てます。
3. 燃料タンク内を点検し、底に異物がたまっている場合は、取除いてください。

100 時間使用ごと	フィルタの清掃
300 時間使用ごと	タンクの清掃



■燃料チューブの交換

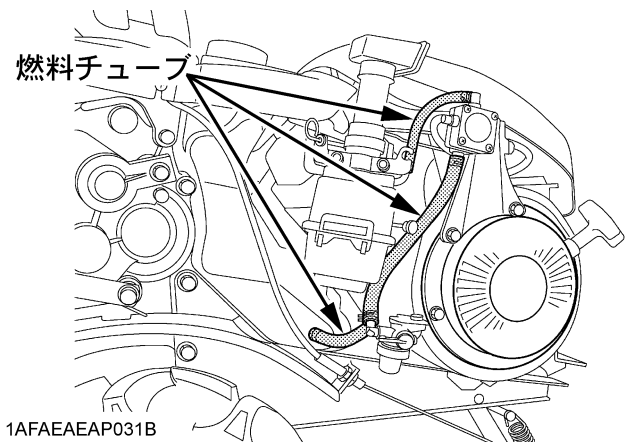
交換にあたっては、購入先にご相談ください。



警告

* 燃料チューブは自然劣化したり傷があると、ガソリンもれして火災の原因となります。作業前に毎回点検し、ヒビや割れが発生したものは、新しい燃料チューブと交換してください。

交 換	2 年間ごと
-----	--------



管理機の簡単な手入れと処置

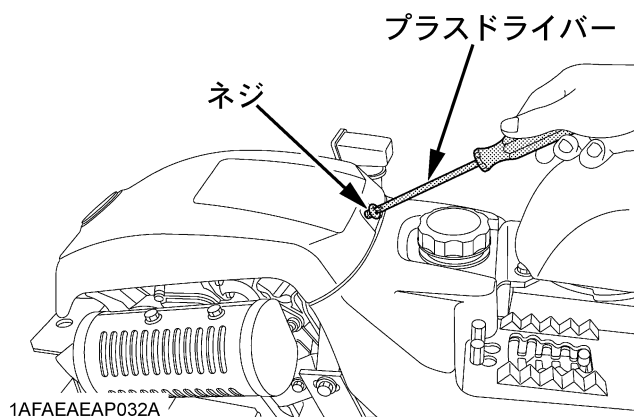
■点火プラグの調節・清掃・交換



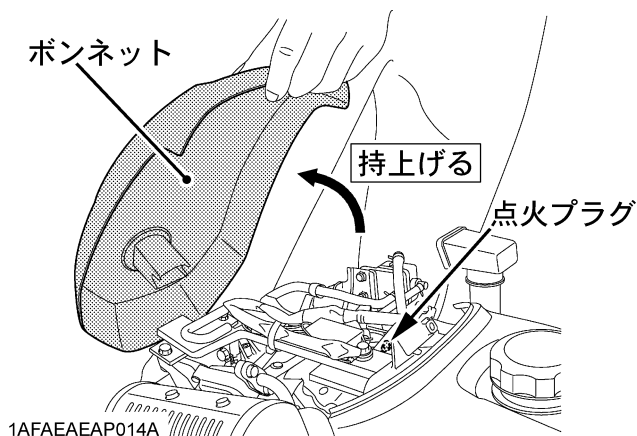
警告

*** 高温部が冷えてから行なってください。**

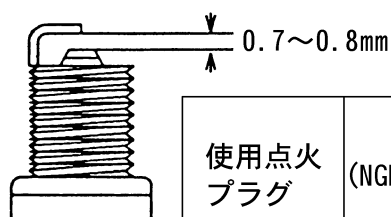
1. プラスドライバーでネジを外します。



2. ボンネットに手を掛けて持ち上げると、ボンネットは外れます。



3. プラグ用ボックススパナでプラグを外して、清掃します。
4. 電極のすき間が 0.7 ~ 0.8mm になるように調節します。
5. 点検調節は 6 ヶ月に 1 回行なってください。

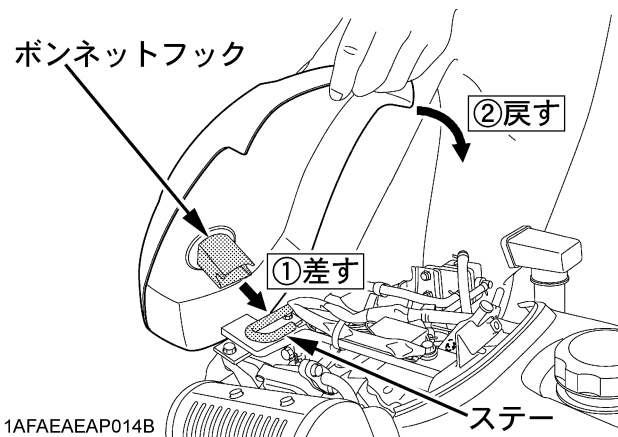


使用点火
プラグ

(NGK) BPR5ES

1AFACAAAP051L

6. 作業が終わったら、ステーにボンネットフック部を差込んで、ネジを締め元の位置に戻します。



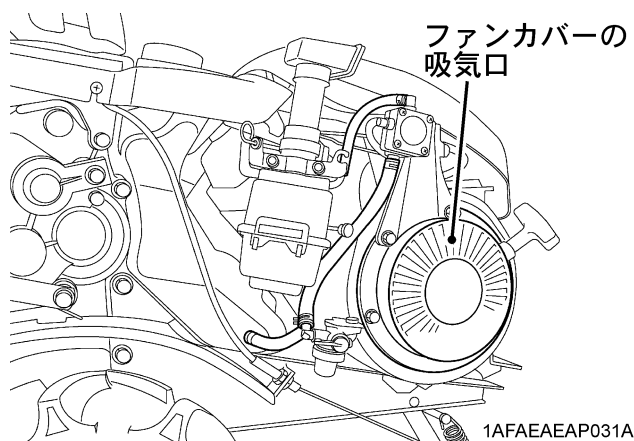
重 要

- * プラグ締付け時は、ネジ山をつぶさないように、はじめ手で締込んでから、ボックススパナで締付けてください。
- * 調節・清掃してもエンジンが不調なときは、新しいプラグと交換してください。
- * プラグを外したまま始動操作しないでください。

必要に応じた点検・整備

■ファンカバーの清掃

ファンカバーの吸気口は、きれいに清掃します。ゴミやワラクズ等の付着があるとエンジンの過熱や出力低下の原因になります。（ここからエンジンの冷却風が吸込まれます。）



■タイヤ空気圧



- * タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を、必ず守ってください。空気の入れ過ぎは、タイヤ破裂のおそれがあり、死傷事故の原因になります。
- * タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は、使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
- * タイヤ、チューブ、リムなどの交換、修理は、必ず購入先にご相談ください。（特別教育を受けた人が行なうように、法で決められています。）

空気圧が高すぎても低すぎても、タイヤの寿命を縮めます。定期的に空気圧を調べ、適正になるように調節してください。

適正 空気圧	K 仕様 (3.50-7)	120kPa (1.2kgf/cm ²)
	J 仕様 (4.00-7)	120kPa (1.2kgf/cm ²)
	W 仕様 (16 × 7.00-8)	140kPa (1.4kgf/cm ²)

空気を入れるには、エアコンプレッサ、又は自動車などのタイヤに空気を入れる高圧手押しポンプを用いてください。

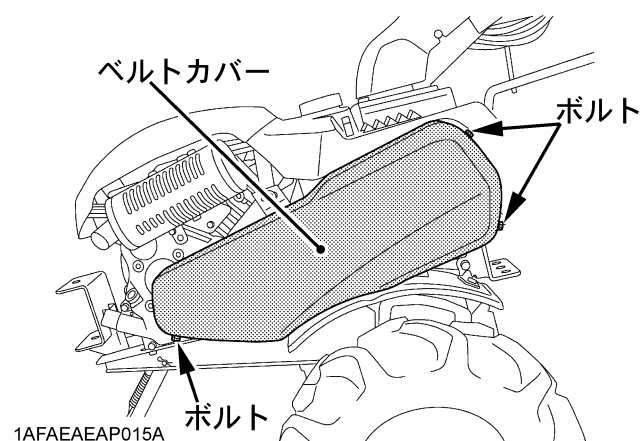
■主クラッチケーブルの調節



- * 主クラッチケーブルの調節を行なう場合は、必ずエンジンを停止して行なってください。
- * 調節が終わったら必ずベルトカバーを取付けてください。巻き込まれるなど傷害事故のおそれがあります。
- * エンジンを始動する前に、主変速レバーを中立にしてください。
- * 調節・確認時は周囲に人や動物を近づけないでください。傷害事故のおそれがあります。

◆ 主クラッチケーブルによる調節

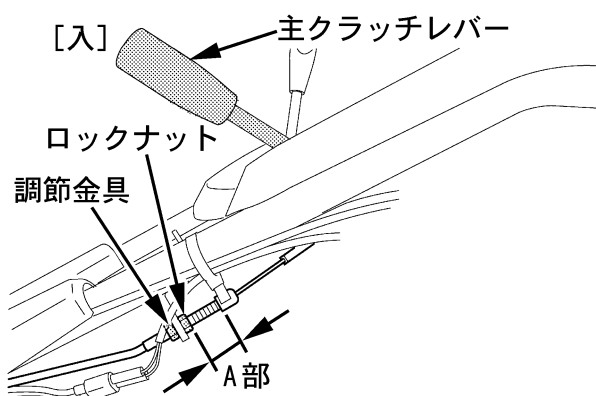
1. ベルトカバーのボルト 3 本を外し、ベルトカバーを取外します。



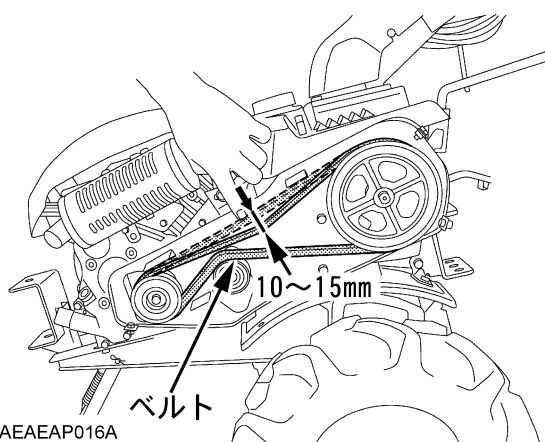
管理機の簡単な手入れと処置

2. 主クラッチレバーを入れた状態で、ベルトの中央部を指で押えて10～15mmたわむ程度に、ケーブル調節金具でテンションプーリを調節します。なお、使用初期はベルトが伸びやすいため、10時間使用後ケーブルを再調節してください。

ベルトがスリップする場合	調節金具のA部を短くする
主クラッチレバーが重すぎる場合	調節金具のA部を長くする



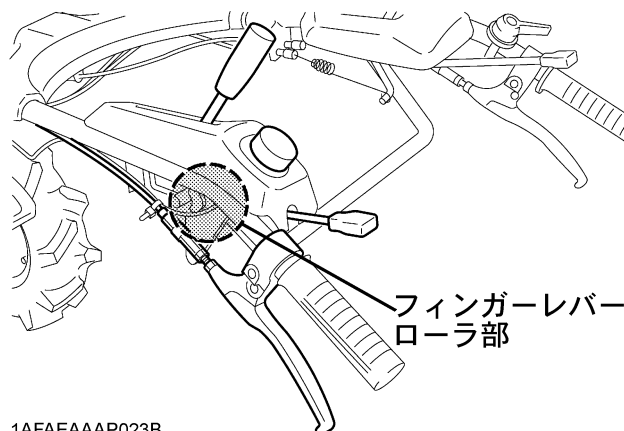
1AFAEAAAP025A



1AFAEAEAP016A

重要

- * フィンガーレバーのローラに土が付着した場合は必ず取除いてください。フィンガーレバーの作動不良の原因となります。



1AFAEAAAP023B

重要

- * 主クラッチケーブルを調節した場合、エンジンを始動してクラッチの【入】・【切】が確実に作動するか確認してください。
- * 調節後は、調節金具のロックナットを確実に締付けてください。

補足

- * 主クラッチケーブルが調節金具の調節範囲で調節できなくなれば、ベルトの交換時期です。ベルトの交換は、購入先にお問い合わせご相談ください。

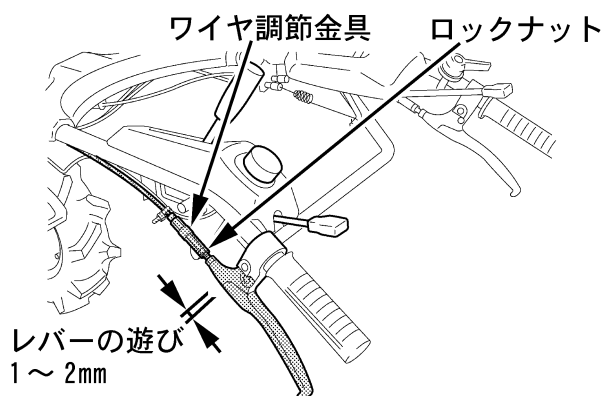
管理機の簡単な手入れと処置

■操向クラッチケーブルの調節

操向クラッチレバーを握っても操向クラッチが切れにくい場合、また操向クラッチレバーを放しても入りにくい場合、及びハンドル逆位置のときに戻りにくい場合は、調節金具のロックナットをゆるめて調節します。

切れにくい場合	調節金具を長くします。
戻りにくい場合	調節金具を短くします。

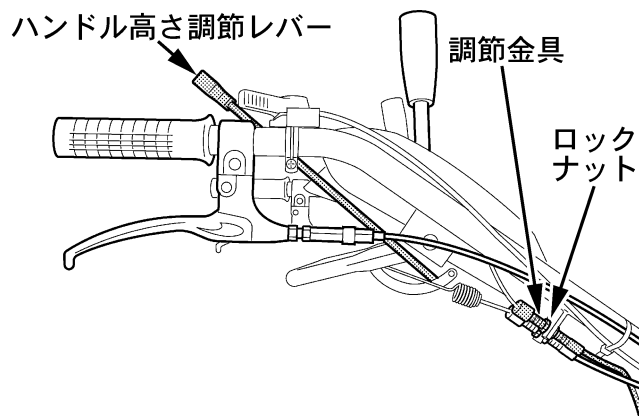
調節後はロックナットを確実に締付けてください。



1AFAEAAAP023A

■ハンドル高さ調節

ハンドル高さ調節レバーを押してハンドルが上下に動かない、又は調子が悪いときは、ワイヤの調節金具で調節します。ハンドルをセットしたときにプレートにピンが確実に入っていることを確認し、調節金具のロックナットで固定します。

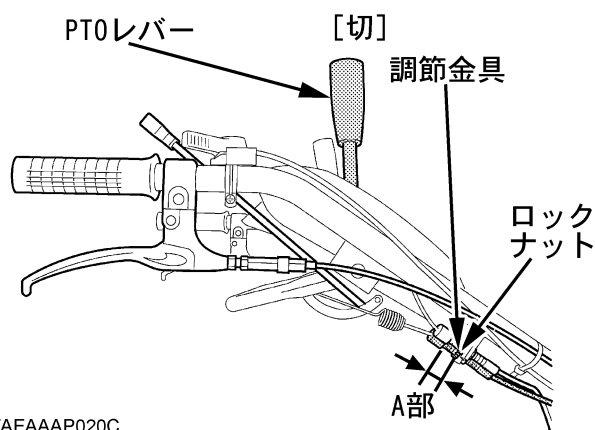


1AFAEAAAP020A

■PTO ケーブルの調節

PTO レバーを【切】にしたとき、ロータリが止まらなかったり、また【入】にしたとき、クラッチが入りにくい場合は、PTO ケーブルの調節金具で調節します。

調節後はロックナットを確実に締付けてください。

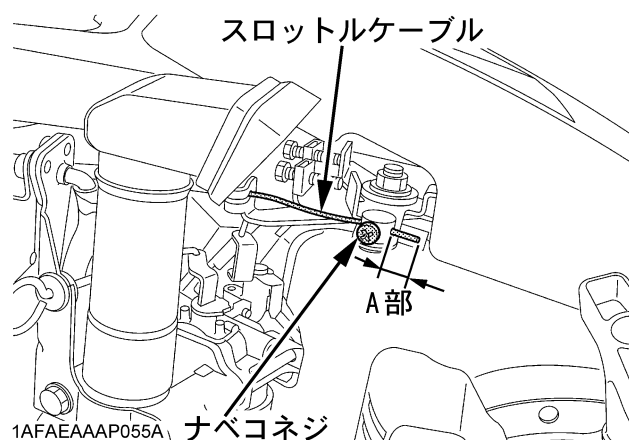


1AFAEAAAP020C

切れにくい場合	調節金具の A 部を長くします
入りにくい場合	調節金具の A 部を短くします

■スロットルレバーの調節

スロットルレバーを最高回転にしてもエンジン回転が上がらないときは、スロットルケーブルを止めているナベコネジをゆるめて調節します。ケーブルの A 部が長くなるように調節すると、エンジン回転が高くなります。調節に際しては、ご購入先にお問い合わせください。



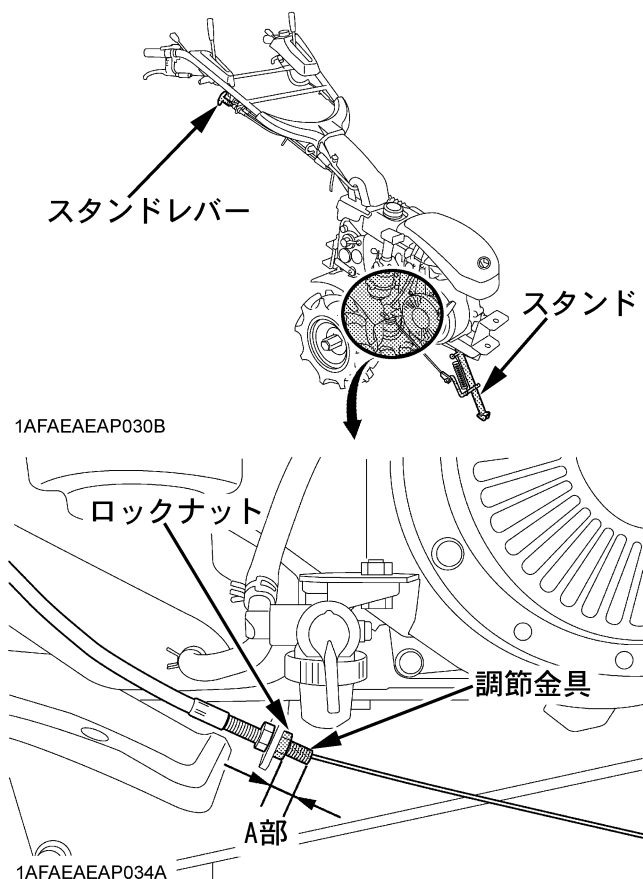
1AFAEAAAP055A

管理機の簡単な手入れと処置

■スタンドの調節

スタンドレバーを手前に引いても収まりが悪い場合、またスタンドレバーを前に出しても完全に立たない場合は、スタンドケーブルワイヤの調節金具で調節します。

調節後はロックナットを確実に締付けてください。



スタンドの収まりが悪い場合	調節金具のA部を短くします。
スタンドが完全に立たない場合	調節金具のA部を長くします。

使用後の手入れ

使用後は、必ずその日に清掃を行ない、各部に付いている土やゴミを落とし、各しゅう動部は錆びないように油やグリス及び防錆剤を適宜塗布します。特にファンカバー内にゴミが詰まりますと、エンジンの焼付きなどの原因になりますので、よく点検・清掃を行なってください。

重要

- * 水洗いするとき、エアクリーナ吸込口から水が入らないようにカバーをしてください。

■エンジン始動不良を防ぐために

エンジン停止後、必ず燃料コックレバーを閉めてください。

重要

- * 燃料コックレバーを開いたままの状態では、保管したり、前に倒したり、また車両で運搬したりすると、エンジン始動が困難となる場合があります。また、クランクケース内へガソリンが流入することもあります。

管理機の簡単な手入れと処置

■長期格納時の手入れ



警告

- * カバーをかけたり、納屋に格納するときは、エンジンが冷えてからにしてください。火災のおそれがあります。
- * 燃料がこぼれたときは、きれいにふき取ってください。爆発・火災のおそれがあります。

1. 主クラッチレバーは **【切】** の位置にして保管します。
2. 燃料タンク・キャブレタ・フィルタポットの中のガソリンは全て抜取ります。
(1ヵ月以上使用しないとき)
3. オイルを交換し、各部をきれいに掃除します。
4. エアクリーナエレメントを、掃除します。
5. エンジンのシリンダ内に湿気が入って、始動が困難になるのを防止するため、リコイルスタータハンドルを引張って、圧縮位置で止めます。
6. カバーをかけ、湿気や草・ワラ及びホコリのない場所に置きます。

重要

- * ほ場に保管していると、地面からの湿気が多いのでさびやすくなります。

■燃料の抜取り



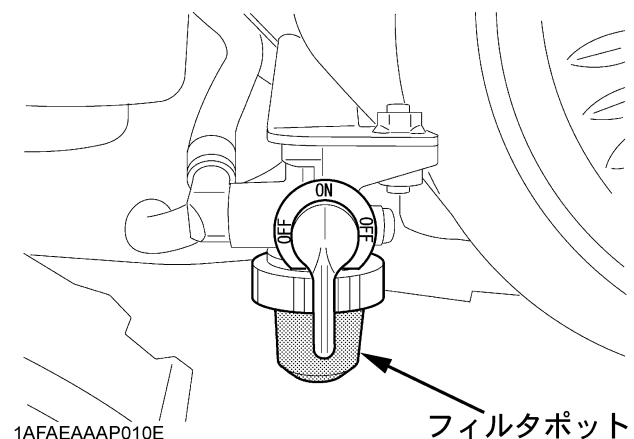
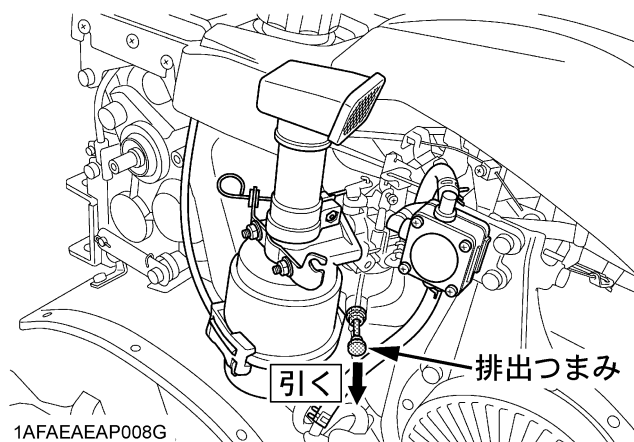
警告

- * 燃料を抜取るときはエンジンを停止し、エンジンやマフラがじゅうぶん冷えてから行なってください。
- * 火気厳禁。くわえ煙草での作業は絶対にしないでください。
- * 燃料がこぼれたときはきれいにふき取ってください。

1ヵ月以上使用しないとき、燃料タンク内のガソリンはポンプなどを使用して抜取り、キャブレタ内は排出つまみを引いて、フィルタポットは外して全部抜取ります。

重要

- * 燃料をそのままにしておくと、燃料タンクやキャブレタ内のガソリンが劣化して、次の始動が困難になります。



管理機の簡単な手入れと処置

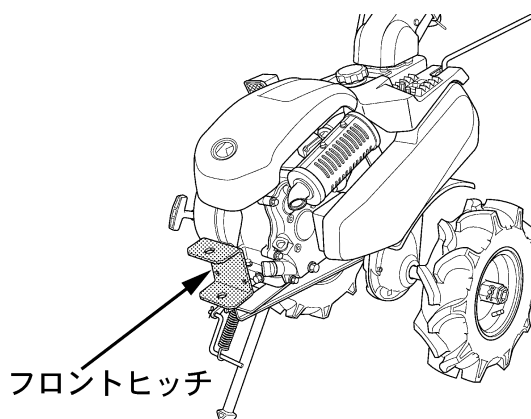
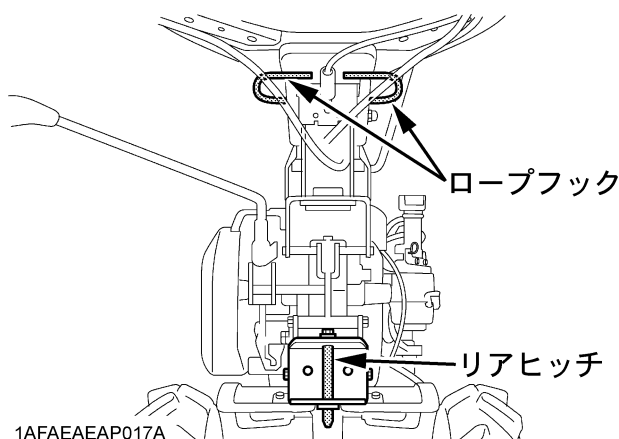
自動車(トラック)への積込み, 運搬



警告

- * 積込み・積降ろしは、平たんで交通の邪魔にならない安全な場所で行なってください。
- * アユミ板はすべり止めの付いた、機体重量に耐えるもので、トラックの荷台の高さ [1] に対しアユミ板の長さ [4 以上] のものを使用し、確実に固定してください。
- * 足元に注意し、車速は最低速で上りは [前進], 下りは [後進] で行なってください。
- * 途中で主クラッチや操向クラッチを切ったり、変速操作を絶対にしないでください。落下・転倒のおそれがあります。
- * トラックは、荷台に天井がない車を使用してください。首や体をはさまれるおそれがあります。
- * トラックでの運搬時は、タンク内のガソリンの量を、積込み・積降ろしに必要な最低量とし、残りのガソリンは、別に用意しておいた法で定められたタンクに移して運搬してください。火災のおそれがあります。

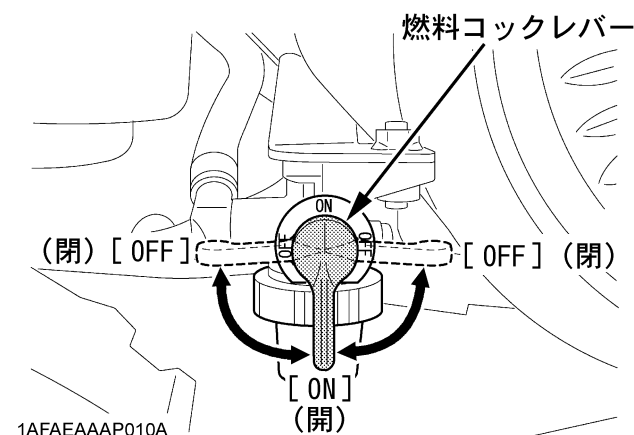
1. トラックを平たんな場所に止め、駐車ブレーキを掛けます。
2. あゆみ板を荷台に確実に固定します。
3. 車速は最低速で、上りは前進 **[1 速]** で、下りは後進 **[1 速]** にします。
4. スタンドを立て、機体を荷台にロープで確実に固定します。
5. 機体にロープを掛けるときは、フロントヒッチ・リアヒッチ及びロープフックの3箇所を固定します。



6. 燃料コックレバーを **[閉]** にします。
7. 雨天時には、エアクリーナの吸込口にカバーをかぶせます。

重要

- * ロープを掛けるとき、変速レバーや樹脂カバー、小物部品にロープが触れないように気をつけてください。破損したり機能が損なわれるおそれがあります。
- * ハンドルへのロープ掛けはしないでください。ハンドルが変形するおそれがあります。
- * エアクリーナの吸込口にカバーをかぶせないで運搬すると、雨水や砂ホコリが入り、エアクリーナ性能が低下します。
- * 燃料コックレバーを **[開]** いたまま運搬すると、キャブレタ内でガソリンがオーバフローし、エンジン始動が困難となります。また、クランクケース内にガソリンが流入することもあります。



付表

主要諸元

販売型式		TA500N-SK	TA700N-K	TA700N-N	TA700N-SCK	TA700N-SCJ	TA700N-SCW	TA800N-K	TA800N-N	TA800N-SCK	TA800N-SCJ	TA800N-SCW	
機体寸法	全長 (mm)	1560											
	全幅 (mm)	625											
	全高 (mm)	1105				1130	1135	1105			1130	1135	
機体質量 (重量)		71	72	68	75	77	82	72	68	75	77	82	
エンジン	型 式 名	FJ130G	FJ180G					FJ220G					
	種 類	空冷 4 サイクル傾斜型 OHV ガソリンエンジン											
	総排気量 (L {cc})	0.133 {133}	0.179 {179}					0.220 {220}					
	出力 (kW {PS} /rpm)	2.4 {3.2} / 1650	3.4 {4.7} / 1700					3.7 {5.0} / 1700					
	最大出力 (kW {PS})	3.2 {4.3}	4.6 {6.3}					5.2 {7.1}					
	使用燃料	自動車用レギュラーガソリン											
	燃料タンク容量 (L)	2.8											
	始動方式	リコイルスタータ式											
走行部	車 輪	3.50-7	3.50-7	ゴムラグ車輪	3.50-7	4.00-7	16 × 7.00-8	3.50-7	ゴムラグ車輪	3.50-7	4.00-7	16 × 7.00-8	
	輪 距 (mm)	190 ~ 290	200, 250	120	190 ~ 290	190 ~ 490	265 ~ 515	190, 290	120	190 ~ 290	190 ~ 490	265 ~ 515	
	主クラッチ方式		ベルトテンション式										
	操向クラッチ方式		ボール式	なし		ボール式			なし		ボール式		
	変速段数	ハンドル正位置 (段)	前進 4・後進 2	前進 6・後進 3 ※									
		ハンドル逆位置 (段)	前進 4・後進 2	前進 4・後進 3									
	走行速度	ハンドル正位置 (km/h)	前進 0.83 ~ 5.7 後進 0.79 ~ 1.3	前進 0.55 ~ 3.7 後進 0.52 ~ 1.1			前進 0.63 ~ 4.3 後進 0.60 ~ 1.2	前進 0.65 ~ 4.4 後進 0.61 ~ 1.3	前進 0.55 ~ 3.7 後進 0.52 ~ 1.1			前進 0.63 ~ 4.3 後進 0.60 ~ 1.2	前進 0.65 ~ 4.4 後進 0.61 ~ 1.3
		ハンドル逆位置 (km/h)	前進 0.79 ~ 5.7 後進 0.83 ~ 1.3	前進 0.52 ~ 1.8 後進 0.55 ~ 1.1			前進 0.60 ~ 2.0 後進 0.6 ~ 1.3	前進 0.61 ~ 2.1 後進 0.65 ~ 1.3	前進 0.52 ~ 1.8 後進 0.55 ~ 1.1			前進 0.60 ~ 2.0 後進 0.63 ~ 1.3	前進 0.61 ~ 2.1 後進 0.65 ~ 1.3
	車軸の形状・寸法 (mm)		六角 対辺 23										
	ホイールチューブの形状・寸法 (mm)		六角 (内対辺 23, 外対辺 32)										
PTO 回転速度 (rpm)		768	791										
ハンドル回転 (度)		-22.5, 0, 22.5, 45, 157.5, 180, 202.5 (レバーワンタッチ式)											
ハンドル上下調節 (段)		4 (レバーワンタッチ式)											

※前進 6 速は、草削りロータ（直径 300mm）作業以外は使用しないでください。

付表

走行速度一覧表

販売型式		TA500N-SK	TA700N-K	TA700N-N	TA700N-SCK	TA700N-SCJ	TA700N-SCW	TA800N-K	TA800N-N	TA800N-SCK	TA800N-SCJ	TA800N-SCW
タイヤサイズ		3.50-7	3.50-7	ゴムラゲ車輪	3.50-7	4.00-7	16 × 7.00-8	3.50-7	ゴムラゲ車輪	3.50-7	4.00-7	16 × 7.00-8
タイヤ径 (mm)		350				400	412	350			400	412
エンジン回転数 (rpm)		1650	1700									
単位		km/h (m/min)										
ハンドル正位置	前進 1	0.83 (14.0)	0.55 (9.2)			0.63 (10.5)	0.65 (10.8)	0.55 (9.2)			0.63 (10.5)	0.65 (10.8)
	前進 2	1.3 (21.8)	0.86 (14.4)			0.98 (16.4)	1.0 (16.9)	0.86 (14.4)			0.98 (16.4)	1.0 (16.9)
	前進 3	3.6 (60.2)	1.1 (19.0)			1.3 (21.7)	1.3 (22.3)	1.1 (19.0)			1.3 (21.7)	1.3 (22.3)
	前進 4	5.7 (94.3)	1.8 (29.7)			2.0 (34.0)	2.1 (35.0)	1.8 (29.7)			2.0 (34.0)	2.1 (35.0)
	前進 5	—	3.7 (62.0)			4.3 (70.9)	4.4 (73.0)	3.7 (62.0)			4.3 (70.9)	4.4 (73.0)
	前進 6	—	☆			☆	☆	☆			☆	☆
	後進 1	0.79 (13.2)	0.52 (8.7)			0.60 (9.9)	0.61 (10.2)	0.52 (8.7)			0.60 (9.9)	0.61 (10.2)
	後進 2	1.3 (21.8)	0.86 (14.4)			0.98 (16.4)	1.0 (16.9)	0.86 (14.4)			0.98 (16.4)	1.0 (16.9)
	後進 3	※	1.1 (18.0)			1.2 (20.5)	1.3 (21.2)	1.1 (18.0)			1.2 (20.5)	1.3 (21.2)
	後進 4	※	※			※	※	※			※	※
ハンドル逆位置	前進 1	0.79 (13.2)	0.52 (8.7)			0.60 (9.9)	0.61 (10.2)	0.52 (8.7)			0.60 (9.9)	0.61 (10.2)
	前進 2	1.3 (21.8)	0.86 (14.4)			0.98 (16.4)	1.0 (16.9)	0.86 (14.4)			0.98 (16.4)	1.0 (16.9)
	前進 3	3.4 (57.0)	1.1 (18.0)			1.2 (20.5)	1.3 (21.2)	1.1 (18.0)			1.2 (20.5)	1.3 (21.2)
	前進 4	5.7 (94.3)	1.8 (29.7)			2.0 (34.0)	2.1 (35.0)	1.8 (29.7)			2.0 (34.0)	2.1 (35.0)
	後進 1	0.83 (14.0)	0.55 (9.2)			0.63 (10.5)	0.65 (10.8)	0.55 (9.2)			0.63 (10.5)	0.65 (10.8)
	後進 2	1.3 (21.8)	0.86 (14.4)			0.98 (16.4)	1.0 (16.9)	0.86 (14.4)			0.98 (16.4)	1.0 (16.9)
	後進 3	※	1.1 (19.0)			1.3 (21.7)	1.3 (22.3)	1.1 (19.0)			1.3 (21.7)	1.3 (22.3)
	後進 4	※	※			※	※	※			※	※
	後進 5	—	※			※	※	※			※	※
	後進 6	—	※			※	※	※			※	※

※部は牽制のため使用できません。

☆部は草削りロータ（直径 300mm）作業時以外は使用しないでください。草削りロータ（直径 300mm）作業時以外は高速牽制装置を **【入】** 位置にしてください。

* この主要諸元は、改良のため予告なく変更することがあります。

標準付属部品

品名	数量 / 台	備考
プラグボックス	1	
取扱説明書	1	
保証書	1	
ガソリンメンテナンス要領書	1	
ボルト	1	ハンドル固定用

主な消耗部品一覧表

● 本機関係

品 名	品 番	数 量			備 考
		TA500N	TA700N	TA800N	
V ベルト (B41)	KF016-6221-0	1	－	－	
V ベルト (B41)	KF032-6221-0	－	1	1	
ケーブル (シュクラッチ)	KF052-4219-0	1	1	1	
ケーブル (PTO クラッチ)	KF052-4242-0	1	1	1	
ケーブル (ハンドルジョウゲ)	KF052-4253-0	1	1	1	
ケーブル (スロットル)	KF052-4293-0	1	1	1	
ケーブル (スタンド)	KF052-4311-0	1	1	1	
ケーブル (ソウコウ)	KF046-4294-0	2	－	－	
ケーブル (ASC, ハンドル)	KF052-4332-0	－	2	2	操向クラッチハンドル側(SC 仕様のみ)
ケーブル (ASC, ミッション LH)	KF022-4333-0	－	1	1	操向クラッチミッション左側(SC 仕様のみ)
ケーブル (ASC, ミッション RH)	KF022-4334-0	－	1	1	操向クラッチミッション右側(SC 仕様のみ)
シャジクピン	61041-1717-0	4	4	4	タイヤ取付け用
スナップピン	05516-5080-0	4	4	4	タイヤ取付け用
オイルシール	61011-1715-0	2	2	2	車軸用
オイルシール	KF022-1416-0	1	1	1	PTO 軸用

● エンジン関係

品 名	品 番	数 量			備 考
		TA500N	TA700N	TA800N	
スパークプラグ	12499-6774-0	1	1	1	(NGK) BPR5ES
フューエルチューブ	KF052-5472-0	1	1	1	燃料タンクから燃料コック
フューエルチューブ	LE020-0453-0	1	1	1	燃料コックからポンプ
フューエルチューブ	LE020-0382-0	1	1	1	ポンプからキャブレタ
エレメント, アッシ (エアクリーナ)	E3199-3611-0	1	－	－	エアクリーナ用
	LE020-0390-0	－	1	1	エアクリーナ用
ロープアッシ	LE020-0448-0	1	1	1	スタータ用

トラブルと処置

■ エンジンが始動しないとき

原 因	処 置
● 始動の手順が間違っている。	7 ページの 始動のしかた の項を参照する。
● 燃料をキャブレタへ送込めていない。	9 ページの プライミングポンプの操作のしかた の項を参照する。
● タンクに燃料を入れたまま 1 ヶ月以上保管し燃料が劣化した。	タンク・キャブレタ内の劣化した燃料を排出し、新しい燃料を入れる。
● フィルタポットに水やゴミが混入している。	ポットを外してフィルタエレメントを清掃する。また新しい物と交換する。キャブレタ内の燃料も排出する。
● チョークを引いた（閉じた）状態でリコイルを何回も引過ぎ燃料を吸い過ぎた。	チョークを戻し（開き）リコイルを引くか、点火プラグを外して乾燥させる。
● エンジン停止後、燃料コックを閉じないで本機を前に倒したり、車両で運搬したためキャブレタがオーバーフローした。	クランクケース内に燃料が混入していたら、新しいエンジンオイルと交換する。
● エアクリーナエレメントが目詰まりしている。	エレメントを外して清掃する。又は新しい物と交換する。
● 点火プラグの火花が弱い、飛ばない。	点火プラグを外して付着したカーボンを清掃する。又は、新しい物と交換する。

■ エンジン回転が上がらない、不安定、出力が不足するとき

原 因	処 置
● エンジンが暖まってもチョークを引いた（閉じた）まま運転している。	チョークを戻す（開く）。
● フィルタポットに水やゴミが混入している。	ポットを外して清掃する。キャブレタ内の燃料も排出する。
● エアクリーナエレメントが汚れている。	エレメントを外して清掃する。
● スロットルケーブルの引張りが不足している。	ケーブルのセット位置を調節する。

■ エンジンが振れる、異音が発生する

原 因	処 置
● エンジン取付けボルトがゆるんでいる。	取付けボルトを締付ける。

■ ハンドルのガタが多い

原 因	処 置
● ハンドル回転部のガタが多い。	固定用ボルト（出荷部品）でハンドルを固定する。（ハンドル位置は中央のみ）

上記の処置をしてもトラブルが直らないときは、購入先にご相談ください。